

令和4年第9回（12月）みなかみ町議会定例会会議録第2号

令和4年12月7日（水曜日）

議事日程 第2号

令和4年12月7日（水曜日）午前9時開議

日程第 1 一般質問

- ◇ 小林 洋 君 . . .
 1. 就任にあたり在所信表明
 2. みなかみファンクラブ構想について
 3. 上越新幹線 上毛高原駅駅名変更取り組みについて
 4. 副町長人事について
 - ◇ 星野宗央 君 . . .
 1. ごみ袋料金について
 2. 子育て支援について
 3. お年寄りの移動対策について
 - ◇ 茂木法志 君 . . .
 1. 公約に対する具体的施策は
 - ◇ 牧田直己 君 . . .
 1. 持続可能な行財政運営についての取組み
 2. 町内居住希望者が暮らせる環境づくりへの取組み
 3. 都市計計画道路の完成に向けた取組み
 4. 子どもの教育環境の充実への取組み
-

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

出席議員（13人）

1番	河合史将君	2番	江口樹君
3番	石坂欣也君	4番	牧田直己君
5番	茂木法志君	6番	星野宗央君
7番	鈴木美香君	8番	阿部清君
10番	高橋久美子君	11番	森健治君
12番	小林洋君	13番	高橋市郎君
14番	石坂武君		

欠席議員（1人）

9番 高橋視朗君

職務のため議場に出席した事務職員の職氏名

議会事務局長	原澤達也	書記	泉雪江
書記	山田直樹		

説明のため出席した者

町長	阿部賢一君	教育長	田村義和君
会計課長	原澤右文君	総務課長	桑原孝治君
総合戦略課長	林市治君	税務課長	櫻井正宏君
町民福祉課長	中西紀子君	子育て健康課長	入澤はるみ君
生活水道課長	金子喜一郎君	農林課長	原澤真治郎君
観光商工課長	高野明夫君	地域整備課長	林昇君
学校教育課長	河合博市君	生涯学習課長	丸山浩文君
水上支所長	萩原達也君	新治支所長	合沢衛君

開 会

議 長（石坂 武君） おはようございます。ただいまの出席議員は13名で定足数に達しておりますので、会議は成立いたしました。

開 議

議 長（石坂 武君） これより本日の会議を開きます。

本日の会議は、お手元に配付いたしました議事日程第2号のとおりであります。

議事日程第2号により、議事を進めます。

日程第1 一般質問

通告順序4	12番 小林 洋	1. 就任にあたり在所信表明 2. みなかみファンクラブ構想について 3. 上越新幹線 上毛高原駅駅名変更取り組みについて 4. 副町長人事について
-------	----------	---

議 長（石坂 武君） 日程第1、一般質問を行います。

一般質問については、7名の議員より通告がありました。

昨日3名の質問が終了していますので、本日4名の質問を順次許可いたします。

初めに、12番小林洋君の質問を許可いたします。

小林君。

（12番 小林 洋君登壇）

12番（小林 洋君） 12番小林洋。

議長の許可をいただきましたので、一般質問を行います。

まず、最初の質問でありますけれども、町長は就任に当たり所信表明という質問でありますけれども、前回11月の臨時議会において、町長が所信を述べました。

私なりに要約させていただくと、愛郷無限を信条に、住みたい、住みたくなる、住んでよかったみなかみ町をつくりあげる。そして、みんなが笑顔あふれ、誇りあるふるさと、未来に責任を持ち、輝かしい未来をつくり上げる。その実行のために、町の営業マンとなり、汗をかき、気力・体力・情熱を持ち、先頭に立ち身を尽くすというふうには私は捉まえましたけれども、町長のほうで、これでよければ、または訂正があれば付け足してもらいたいと思います。

議長（石坂 武君） 町長。

（町長 阿部賢一君登壇）

町長（阿部賢一君） ただいまの小林洋議員から、11月16日の所信についてお話がありました。

まさに今、小林洋議員がおっしゃった意気込みで、町民の期待に応えるべく一生懸命汗をかき、身を尽くす、そういう思いであります。

細かい部分については、前段11月に触れたとおりでありまして、気持ちは、小林洋議員がおっしゃるとおりの気持ちで、これからも一生懸命町のため、町民のために一生懸命頑張りますので、よろしくお願い申し上げます。

議長（石坂 武君） 小林君。

（12番 小林 洋君登壇）

12番（小林 洋君） 簡単に自分勝手に要約させてもらいましたが、間違っていないということで、よろしくお願いします。

次に、町長が選挙中、公約というか、法定ビラという形でお配りしたみなかみ町ファンクラブ構想についてなんですけれども、その中に体験型観光とみなかみ町マルシェという2項目がありますけれども、その中、なかなかちょっと中身が分かりづらい部分もありますので、この辺の構想についてお聞きしたいと思います。

議長（石坂 武君） 町長。

（町長 阿部賢一君登壇）

町長（阿部賢一君） 法定ビラのファンクラブ構想、マルシェのご質問だというふうに思います。

11月16日のときには、冒頭、簡潔に所信を表明するというので、この2点については触れなかったわけでありまして。今回、こういう質問の機会をいただきましたので、そのことについて、今の思い、どういう形で取り組むかについてご説明を申し上げたいと思います。

この構想につきましては、まだ就任して私も1か月、今日たった段階ですので、いろいろと当局の皆さんと検討しているところであります。

例えば、みなかみ町にゆかりのある方やみなかみ町を応援したいと思っていただける方、みなかみ町のことをもっと知りたいと思っている方に、そういう方々に応援団になっていただき、町の魅力を全国に発信し、知名度を高めるなど、まちづくりの力になっていただくという取組です。様々な接点でつながる在住者や出身者、そして観光といった地域に興味がある、または、つながりがある交流人口に対して、地域のサポーターとしてより積極的に関与する会員組織をつくり、そこにファン会員の登録を促し、継続的に活動の機会を提供することで、観光関係人口を増やしていく仕組みをつくっていきたいというふうに考えております。

取りあえず、一次でいいですかね、一次。まあ、要するにそういう取組、まだ練っている、検討を、これからいろいろなことを、情報、いろいろなやっている自治体もありますので、情報収集してどういう方法がいいか、どういうことがより効果が上がるかということは今検討している段階だということで、ご理解を賜ればと思っております。

議長（石坂 武君） 小林君。

(12番 小林 洋君登壇)

12番(小林 洋君) それは、体験型観光とマルシェのほうも含めての話でよろしいですか。内
外に、ファンクラブとか応援団をつくって交流し、発展させていくという。それは体
験型マルシェも含めて、共通のことというふうに捉まえてよろしいですか。

これから構想を練っていくということで、どういうふうにそれを募って、どういうふう
に増やしていくかということもこれからだということなので、内容も含めて、そのファンク
ラブのメンバーに具体的にどうしてもらおうのかということも含めて、これからという解釈
でよろしいですか。一応。

議長(石坂 武君) 町長。

町長(阿部賢一君) いろいろな方法があるんだと思うんですね。それで、やっぱりSNSで広く
町のため、活動を紹介してもらったりとか、また、会員には特典をつけるとか、そういう
付加価値の調整を行ったり、また、いろいろな抽選会みたいな形のことも考えてもいいの
かなと思って、会員さん向けの。そんなようなことも全てにおいて、可能性があることに
ついては、いろいろこれから調査研究したい。

また、ふるさと納税なんかにつきましても、納税してくれた方に情報発信して、そうい
う方にもみなかみ町に目を向けていただいて、関心を持っていただいて、ファンクラブの
会員になっていただけるような、そんな取組もしてもいいのかなと思っております。

現在、皆さんご承知だと思いますけれども、MINAKAMI HEARTはもちろん
そういうリピーターの獲得を目的として始まったことだと承知しております。何を使うか
ということも、例えば町のホームページにするのか、そういうことも含めて、また観光協
会なんかでもいろいろやっていることがありますよね。そういうことも含めて、いろいろ
検討したい。

それと、あと、ふるさと親善大使で歌手のなつこさんとか、あと、みなかみのプロバス
ケットチームのエグゼとか、そういう方々にもやはりその発信とかに協力してもらえるよ
うな体制が取れたらいいなというふうに考えております。

今の現段階、マルシェについても、やはり町、いろいろ、湯原でいろいろやったり、こ
の間も11月26日、27日ですか、そういう取組がありますので、そういうことをもっ
と広げていきたい、充実させていきたいということを想定しています。

議長(石坂 武君) 小林君。

(12番 小林 洋君登壇)

12番(小林 洋君) いずれにしても、こういったファンクラブ会員を増やしていくには、まず、
訪れてもらうきっかけや、町に何か、どう関わりを持ってもらう。それによってみなかみ
町の魅力を知ってもらって、みなかみ町を好きになってもらうということも前提ですし、
町出身者の町外に住まわれている方たちには、特にやはり自分たちのふるさとを誇りに思
ってもらえるような、これも町長が所信の中でも言っていますけれども、誇りのあるまち
づくりと、誇りを持ってもらうまちづくりということで言っていますので、その辺が町長
が言っておりますことの重ね重ねでこういうところは基本のところになってくるとしま
すので、これからの具体的な構想に期待いたします。

次に、上毛高原駅の改名、駅名変更についての取組なんですけれども、10月29日ですか、ちょっと私が目にしたのは朝日新聞なんですけれども、町長就任してすぐのときのインタビュー記事でありますけれども、町長は、上毛高原駅改名（時間を要する）という見出しになっていて、町長は、これ、記者が、町がJR東日本高崎支社に地名を入れるよう改名を要望したことについてのインタビューだと思うんですけれども、町長は其中で、今の駅名が悪いとは思っていない。将来的には地名が入るのが当然だということも理解できると。負担が、これは財政的なものでしょうけれども、負担が生じると思うので、理解を得られるかという問題もある。そして、最後に、周辺自治体と協議して初めて話が進むことなので、それがまず先だというふうにインタビューの中では、記事の中では答えて載っていました。

その中で、まずちょっとお聞きしたいのが、まず最初に、駅名が悪いとは思っていない、今の状態で駅名が悪いとは思っていない。ただし、将来には必要だと、かなというふうに考えているという部分なんですけれども、ここのちょっと部分について回答願いたいんですけれども。

議長（石坂 武君） 町長。

町長（阿部賢一君） お答えします。

今の上毛高原駅名が悪いとは思っていないというのは、もう40年から経過していて、当初だったら、やはりどこの駅名もその所在する自治体名が入っているのが当然だという認識で皆さんいたと思うんですけれども、40年経過して、もう慣れているというか、当然なんだなということで、そういう定着しているという意味で悪いとは思っていないという認識を示させていただきました。

やっぱり将来的には、やはり所在する自治体名が入るのが当然あってもいいのかなということは示させていただいて、それで、やっぱり小林議員がさっきおっしゃった、例えば若く、大学なり就職でみなかみを離れて、地方、首都圏なり、みなかみ以外で生活している方を思えば、上毛高原駅名が、新幹線の駅がみなかみ町だと、仮にですよ。仮にみなかみ町だとなった場合には、まあ、その部分に対してもやっぱりふるさとを誇れるのかなという、そんな思いもあります。ですから、将来的にはあってもいい、入ってもいいのかなという。

上毛新聞、朝日新聞社の今のお話し、記事ですよ。上毛新聞社の記事は、確かに同じそのことに対して記事が載っていたのは、やはり今、小林議員がおっしゃったように、その方針を撤回するつもりはないと、そして、財政的負担の問題もあるということと、あとはやっぱり地域周辺の自治体との合意形成が必要だというような記事が載っていたのかなというふうに思っていて、まあ、今、小林議員が紹介してくれた記事の内容とは相違はないというふうに思っております。

今のところ、だから、進捗状況については、私は一切承知していないわけでありまして、そのままちょっと答弁続けさせていただくとすれば、次のステージというのは、JR東日本さんがその経費に、改名に関わる地元自治体の財政負担の金額がはっきりと提示されたときに、またそこで議論があってもいいのかなというふうな思いがしております。

そんな感じで、よろしいでしょうか。

議長（石坂 武君） 小林君。

（12番 小林 洋君登壇）

12番（小林 洋君） 40年間で定着しているという答弁でしたけれども、これ定着しているのは、この地域とこの地元だけで、一歩外に出れば、みなかみ町、利根沼田地方とも言うてもいいですけども、新幹線の駅があるというのは全く定着はしていないと、自分の中ではそう実感しています。

我々やっぱり東京にいた時代、私個人で言えば、ちょっと関西圏にいた時代。そのときに、うちのほう観光地だから遊びに来なよと。どうやって行けばいいの。当時は学生だったり、あるいは車なんていうことはなかったですから、在来線の上越線で来てもらうか、新幹線の駅があるんだよと。えっ、新幹線の駅あるの。これはもう東京でも関西でも、どこ行っても同じ反応、当時はですね。

今でも、みなかみに訪れてもらった人に関しては、上毛高原は、みなかみに行くのに上毛高原を利用するというようなのは多少は定着していますが、本来、観光で人を呼び込もうと思っている地域が、要するに、せっかく新幹線の町があるのに、全くその地域を連想させない駅がある。

これは、経済でも観光でも非常に有利なツールの高速鉄道の駅がありながら、これはまさにブランド力も何も発揮できないし、もう致命的な問題だと思っています。

確かに、上毛高原が最初できるときの経緯は、私自身はそれなりに知っていますから、先人が大変苦労の上に、この上毛高原という駅に定着させたという経緯も、自分自身は承知しているつもりですけども、もう既に40年、昭和の時代のあの時代からもう今、令和の時代になり、ここで駅名の変更が必要なのだと。

これ、我々の周りも、駅名変更に関しては賛成している者が多いです。

次の、まあ、これさっきも、町長、自分に、答弁の中でありましたけれども、やはり外に住んでいる者は、その駅名になったことによって、さっきの話じゃないですけども、周りに自分たちのふるさとを自慢というか、案内するのにやはりそういうところで誇りを持てるんですよ。そういうところは理解してもらっていると思いますので、やはり財政負担の形は、これはやり方がそれぞれあると思いますので、町が当然全体を負担する、これに関しては、この条件をつけて駅名どうすると聞けば、まあ、半分の方は、お金出してまでもやる必要はないという人も多いでしょう。

そこを知恵を絞って、財政負担が極力ないような状況に持っていける方法はあると思うんですが、その辺、町長いかがでしょうか。

議長（石坂 武君） 町長。

町長（阿部賢一君） 小林議員おっしゃるとおりに、いろいろな方法があるんだと思います。

例えばクラウドファンディングでしたか。そういう駅名変更の特化したそういう形とか、例えば、あとは、ふるさと納税なんかも1つの選択肢としてあってしかるべきだと思います。

やっぱり極力一般財源を使わないで変える方向になれば、いわゆる町民の理解も、全体

的なそういう意見、理解も得られやすいのかなというふうな気がしております。

ですから、そういういろいろな方法を考える上でも、多少時間というんですか、必要なのかなと思っています。その間に、方法はいろいろな選択肢があると思いますので、そんな形でもうちょっとあってもいいのかなというふうに考えております。

議長（石坂 武君） 小林君。

（12番 小林 洋君登壇）

12番（小林 洋君） クラウドファンディングやふるさと納税、また、企業納税なんかもお互いにメリットがあれば、ギブ・アンド・テークで、多分企業なんかも、これで地域の、町のブランド力が上がれば、決して乗ってこない話でもないと思うんですよね。その他、もっと細かい話になれば、企業とはちゃんと話し合っなければならない話ですけども、そういう、町長言ったとおりにいろんな方法があると思うんです。

だから、それを時間、この件に関しては、もう時間をかけてというか、実際その結果が出るまでには時間かかりますけれども、その至るまでの工程に時間をかけていけば、これチャンスがなくなるんじゃないかなというふうに考えているんですけども、だから、まず、町長も言っていましたけれども、自治体との協議、コミュニケーションを取ってもらって、動かせるところは早く動かしてもらってと考えているんですが、どうでしょうか。

議長（石坂 武君） 町長。

町長（阿部賢一君） 動かせるところは動かしてというお話ですけども、私も就任してまだ1か月とちょっとということで、近隣の首長さんとも、正式に会議でお会いしたのはもう数回程度というところなので、これから、もちろん利根沼田、また、やはり利用するとなると吾妻郡の高山村と中之条さんなんかに、やはりお話をさせていただく機会があれば、そういう話はつなげていきたいと思っています。

以上です。

議長（石坂 武君） 小林君。

（12番 小林 洋君登壇）

12番（小林 洋君） 町長おっしゃっている町の営業マンとして、先頭に立ち、情熱を持って進めてもらって、その姿をまず真っ先に見せられるのがこういう件かなと思うんですけども、今やらなければならないことをいつやるんですか、今でしょうというタイミングだと思うんで、このタイミングを逃すと、本当にチャンス、機会というのは、やることをやって駄目なのと、やることが後手に回って流れてしまうのでは全く内容が違ってくると思いますので、その辺、町長の町の営業マンとしての突破力に期待いたしますので、よろしくお願いいたします。

次に、副町長人事の件についてなんですけれども、これに関しては、やはりちょっと第三者も関わってくる件、可能性というか、関わってきますので、答弁できる範囲で、また、どんなふうに考えているのかというのが、その辺の事情を含めて言える範囲で言っただけだと思います。

議長（石坂 武君） 町長。

町長（阿部賢一君） 副町長人事については、しかるべき時期に適材適所の人事ということを考え

ておりますけれども、今の現段階では白紙というふうに申し上げさせていただきます。

今、いろいろ公務、もうこれ忙しいのはもう当然のことで、やりがいを持って充実した毎日を過ごしているのが現実で、今のところ職員の皆さんにも協力していただきながら、職務に専念させていただいている、まあ、白紙ということでご理解をいただいて、しかるべき時期に適材適所という人事でお世話になればというふうに思っております。今言えることはそういうことで、ご理解いただければと思っています。

議長（石坂 武君） 小林君。

（12番 小林 洋君登壇）

12番（小林 洋君） いずれは、副町長は任命するということですよ。それで、ちょっと時期については全く白紙と。このまんま町長1人体制で行く可能性もあるということですか。

（「まあ、それも含めて」の声あり）

議長（石坂 武君） ちょっと手挙げて。

町長。

町長（阿部賢一君） 当面の間は、ちょっと1人で一生懸命やりたいなと思っています。その時期がいつかということは、今の段階で明言することはちょっと避けさせていただきたいと思っています。

以上です。

議長（石坂 武君） 小林君。

（12番 小林 洋君登壇）

12番（小林 洋君） 大事な人事なので、やたらに焦って人事をつけるよりも、その辺は慎重になってもらえることは、やぶさかでないんですが、やはり町長も多忙だと思います。

それと、こう言うは何なんですけれども、町長も政治の経験は長いですが、行政の経験というのはこれからだと思いますので、やはりそういったところで補えられる人材というのが必要なかなというふうには、あくまでもこれは町長の人事権なので、我々が口出す必要はないですが、よりよい町になるために、その辺は焦らず、大事なポストですから、その辺を慎重にやっていただければと思いますけれども、どうでしょう。

議長（石坂 武君） 町長。

町長（阿部賢一君） ありがとうございます。

確かに政治経験はあるにせよ、行政経験というのはなかなか、見ているだけであれですが、中に入ってみるといろいろ仕事量が多いので、大変びっくりしています。

焦らず大切な人事という小林議員のご指摘のとおりだと思っていますので、焦らずしっかりと適材適所の人事ということで、しかるべき時期にまたそういう提案ができればと思っていますので、いろいろ、今のところは、だから気力、体力十分まだありますので、体力的には1期の議員さんには劣るかもしれませんが、その分情熱でカバーして一生懸命頑張りますので、よろしくお願ひしたいと思います。

以上です。

議長（石坂 武君） 小林君。

（12番 小林 洋君登壇）

12番(小林 洋君) それでは、最後になりますけれども、慎重になるところは、最初からの質問も含めて全体の締めになりますけれども、慎重にやるところは慎重にやってもらって、ただ、やっぱりすぐ動かなくてはならないところはその行動力ですぐに動いていただいて、時間を空けたことによって停滞してしまったり、話がなくなってしまったりしないように頑張っていたきたいというふうに思います。

最後に、一言いいですか。

議長(石坂 武君) 町長。

町長(阿部賢一君) 時間をかけてやるべきことはもちろんそれはやる、スピード感を持って取り組まなければならない。

小林議員おっしゃっているのは、上毛高原駅のことを言っているんだと思うんですけども、スピード感、そういうちょっと感じたんですけども、延伸、北陸新幹線でしたか、2023年。それに、仮に間に合わなくてもですよ、仮に。なかなか今の状況だと大変厳しいという、事務方からはそういう報告を受けているんですけども、仮にそれに間に合わなくても、やはり今ご指摘のとおり、将来的にはという私もお話しをさせていただいていますけれども、そういう形で、そこにこだわらずにやっぱり取り組んでいくということも考えていますので、その辺はちょっとご理解をいただきたいと思います。

以上です。

議長(石坂 武君) 小林君。

(12番 小林 洋君登壇)

12番(小林 洋君) 追加で答弁してもらいました。

やることをやって駄目なら、町長の言ったとおり次の機会を狙うということは大事だと思いますので、無駄に時間を費やしたことによって駄目というか、それに間に合わなかったとかというふうにはならないように気をつけていただければ、期待している町民をがっかりさせないことにもなると思いますので、進めていただきたいと思います。

今回の質問に関しては、就任1か月余りということで、町長の今後の施政とか構想についてお聞きしました。これから練っていく構想、進めていかなければ、進めていく事案、これから期待して、議会のほうとしても協力できるところは大いに協力し、チェックし合うところはチェックし、切磋琢磨で両輪としてやっていきたいと思いますので、今後のご活躍をご期待します。

これにて一般質問を終わります。ありがとうございました。

議長(石坂 武君) これにて12番小林洋君の質問を終わります。

通告順序5

6番 星野 宗 央

1. ごみ袋料金について

2. 子育て支援について

3. お年寄りの移動対策について

議長(石坂 武君) 次に、6番星野宗央君の質問を許可いたします。

星野君。

(6番 星野宗央君登壇)

6番(星野宗央君) 6番星野宗央、通告に従いまして一般質問を行います。

ちょっと喉の具合が悪いもので、マスク着用のままでちょっとしゃべらせてもらいますけれども、ちょっと聞きづらいかもしれないですけれども、よろしく願いいたします。

今回は、3つの項目について質問させていただきます。

1つは、ごみ袋料金について、2つ目、子育て支援について、3つ目、お年寄りの移動対策についての3つです。よろしく願いいたします。

私が選挙の対策のために、町民対象に行ったアンケートの中で、トップの要望として、このみなかみ町のごみ袋が高いというのがありまして、みなかみ町の燃えるごみ袋の袋は、今1枚70円となっています。沼田市と比べるとおよそ5倍の値段となっていると思いますが、なぜこれほどの値段になっているのか、まず最初にお聞きしたいと思います。お願いいたします。

議長(石坂 武君) 町長。

(町長 阿部賢一君登壇)

町長(阿部賢一君) 星野議員の質問にお答えします。

ごみ袋が何でこんなに高いのかと。私が家庭でごみを黄色い袋に入れて、ごみ出しもしています。その頃からこの金額だったと思っています。

現在の指定ごみ袋料金は、旧月夜野町が平成7月4月に導入し、その後、一部事務組合で運営する奥利根アメニティパークの稼働を平成10年4月に控え、構成団体であった旧新治村は平成8年から、旧水上町は平成9年から導入された経緯となっています。旧月夜野町での指定袋料金の設定については、ごみの減量化を目的として、平成5年度の収集手数料を基に、週2回の収集を基本として現在の手数料が設定をされたということです。

町としては、ごみ処理経費の一部を排出量に応じて従量的にご負担をいただくことで、ごみを出さない工夫、あるいはごみの減量化にも効果が出ていると考えております。

令和3年度の実績で、可燃ごみ1袋の処理費に対する負担率は約8%となっております。ごみの有料化の目的とするところは、排出量に応じた住民負担の公平化を図るとともに、ごみの減量化及び資源化を促進することで、ごみ処理経費を削減し、ごみに対する意識を高めていただくところにあると考えております。

これまで……ここまででいいですかね、一次答弁は。

そういう理由で、今の価格が設定されています。

議長(石坂 武君) 星野君。

(6番 星野宗央君登壇)

6番(星野宗央君) 経過を答弁していただきました。

みなかみ町のごみ袋が高いのが、ごみの削減につながっているというお話でしたけれども、沼田市のごみ袋が、沼田のホームセンターでは、みなかみ町のごみ袋と一緒に売っているところがあるんですけれども、それを比べるとやっぱりちょっとね、何となく沼田のごみ袋を買ってなんていうふうに思う人も中にはいるみたいで、沼田市のごみ袋を購入し

て沼田市に捨てているという住民がいるというふうにちょっと聞いたんですけども、町としては把握していますでしょうか。

議長（石坂 武君） 町長。

町長（阿部賢一君） 町として把握しているかということなんですが、把握はしていません。私も把握はしていません。

いいですかね、そういう答弁で。

議長（石坂 武君） 星野君。

（6番 星野宗央君登壇）

6番（星野宗央君） 把握はしていないということだと思います。

把握していて放置しているんだとすれば、ちょっともっと問題かなと思ってはいたんですけども、沼田市並にみなかみ町もごみ袋料金を引き下げていけば、こういうことがなくなるのではないかなというふうに思って、今回の質問も作っているんですけども、そうやってごみ袋料金を沼田市並に引き下げることに関して、どのくらいの費用が必要なのかなということ、ちょっとお答えいただければと思います。

議長（石坂 武君） 町長。

町長（阿部賢一君） 費用の数字だと思うんですが、ちょっと前段の話、もし仮に、沼田市の袋を買って、わざわざ遠くから沼田市まで持って行くより、多分その境界というか、市とみなかみ町の近隣の人かなと、もしあればですよ、そういうふうに。

ただ、やはり廃棄物の適正な処理ということを見ると、みなかみ町で出たごみはみなかみ町で処理、そこに出してもらうのが社会通念上のルールというんですか、そのように思っています。

ですから、もしそういう方がいたとすれば、ちょっと残念かなという思いもしています。

さっき、どのくらいの数字ということのご質問だと思ったんですけども、間違った数字というか、言っても困るので、生活水道課長のほうから答弁させたいと思います。

議長（石坂 武君） 生活水道課長。

（生活水道課長 金子喜一郎君登壇）

生活水道課長（金子喜一郎君） お答えいたします。

どのくらいの費用が必要であるかというご質問であると思いますけれども、この費用につきましては、ごみの手数料の改定が前提であると考えます。手数料収入の減収額等につきましては、ごみ処理経費との関係も出てくると思っていますので、その手数料の関係のことが決まってくないと、その費用というのは算定が難しいと考えています。

以上です。

議長（石坂 武君） 星野君。

（6番 星野宗央君登壇）

6番（星野宗央君） ごみ処理、ごみ袋の料金の引下げについて、全体が分からないとなかなか難しいということでしたけれども、やっぱりごみ袋料金、何ていうんですか、一遍に全部下げるということではないと思うんですけども、少しずつでも安くなれば、今の物価高騰している状況からはちょっと助かるかなというふうに思いますので、ぜひとも町民の願

いに少しでも応えていただけますようお願いを申し上げまして、次の質問に移ります。

みなかみ町は、ごみの処理方式を固形燃料を作っていた、RDFを作っていたときから、12月、11月ぐらいで転換をして、ごみ処理をそのままするようになりました。

アメニティパークを改修しているとのことですが、アメニティパークの現在の状況や今後どのようにごみ処理をしていくのか、お考え、お答えいただけますでしょうか。

また、このごみ処理の変更で、年間にどのくらいの経費削減を見込んでいるのでしょうか。

議長（石坂 武君） 町長。

町長（阿部賢一君） アメニティパークの現状ということでの質問ということでご理解をさせていただいて、答弁させていただきます。

奥利根アメニティパークの現状、星野議員ももうご承知だとは思いますが。広域化施設による処理が始まるまでの間、全量外部委託による処理とするため、令和4年度で固形燃料化施設を停止する判断をいたしました。

本年5月に奥利根アメニティパーク中継施設整備工事は、ご存じのように、すでに始まっていると思います。神鋼環境ソリューションと請負仮契約を締結し、6月議会において本契約の議決をいただいたところであります。現在、建築確認済証も交付され、現場で11月下旬より具体的な工事に着手しております。

固形燃料化施設は、本年11月18日を最後に稼働を停止し、現在、じんかい収集車により収集された可燃ごみを近隣自治体の処理施設まで運搬して処理をするルートと、アメニティパーク内のストックヤード棟に仮置きされた可燃ごみを民間業者により処理するルートのそれぞれのルートによって、滞りなく処理をされておるのが現実です。

よろしいですかね。そういう状況で、工事は着々と進んでいるということでご理解いただきたいと思います。

議長（石坂 武君） 星野君。

（6番 星野宗央君登壇）

6番（星野宗央君） そのごみ処理を委託している、片品と吾妻にごみ処理を委託していると思うんですよ。その一般業者に今後、その余ったごみを出すと思うんですけども、その業者の名前とかというのは公表できたりしますか。

議長（石坂 武君） 手を挙げて。

町長。

町長（阿部賢一君） 生活水道課長が説明します。

議長（石坂 武君） 生活水道課長。

（生活水道課長 金子喜一郎君登壇）

生活水道課長（金子喜一郎君） お答えいたします。

今、可燃ごみにつきましては、ご質問のとおり、利根東部の衛生施設組合、尾瀬クリーンセンターと吾妻東部衛生施設組合の処理場に委託処理をしています。残りの部分につきましては、民間委託となっております。民間委託分につきましては、株式会社ウィズウェイストジャパンと契約をして処理をしているというところです。

単価につきまして、ご質問、業者名でよろしかったでしょうか。失礼しました。

議長（石坂 武君） 星野君。

（6番 星野宗央君登壇）

6番（星野宗央君） お答えいただきました。

それで、直接ごみ処理をするということなんですけれども、やっぱりごみ処理経費を抑えるには、やっぱり資源にして、資源化できるものは資源化してということだと思うんですけれども、そのごみ処理費用を抑えるためには、生ごみなんかも取り除いているわけなんですけれども、紙ごみ、プラスチックごみを資源化していく必要があると思うんですけれども、今後どのようにごみ減量の取組を進めていくんでしょうか。お聞かせいただけますか。

議長（石坂 武君） 町長。

町長（阿部賢一君） 分別、これは、ごみの減量化は、町民の協力と理解がなければ到底進められるものではないと思っています。

ですから、やはり町民の皆様方に町行政挙げてご協力を願い、今までもしていますけれども、やはりそういう姿勢はこれからも引き続きお願いする。環境に皆さん関心がある時代になってきましたから、とにかく協力して、できることは、まあ、星野議員も家庭では恐らくやっていたらいると思いますけれども、そういうことを広く広めていく。

学校現場の教育現場なんかでも、ごみのそういういろいろな授業というんですか、ホームルームなりでそういうお話もしている機会があってもいいんだと思っていますし、やはりごみの減量化というものに対して、町民の理解とご協力が大前提であるということ。まあ、認識は多分同じ、星野議員も同じだと思っていますけれども、そのような形で進めていきたい。

具体的にどうするんだという話ですけれども、それは、やるべきことをルールにのっとってやっていくのみ。必ずそうすれば、その先には必ず、資源化もリサイクルも、必ず先にそれが見えてくるんだと思います。そのために何をやるべきかということで、今、生活水道課が所管ですけれども、やっているということでご理解いただきたい。

将来的には、この間、調印しましたけれども、利根沼田の広域で、ごみの処理を広域化ですということ、それはまだ先の話にはなりますけれども、そういう体制だということでご理解いただいて、また、それぞれ個人個人でも結構ですので、ごみの分別化には協力していただきたいと思っております。それが必ず、そういう今おっしゃっているようなことにつながっていくんだと思っていますので、ご理解、ご協力をお願いします。

議長（石坂 武君） 星野君。

（6番 星野宗央君登壇）

6番（星野宗央君） 今後のごみ行政、期待をして、次の質問に移りたいと思います。

次の質問ですが、子育て支援についてということで、昨日の鈴木議員とちょっとかぶる部分があると思いますけれども、ご容赦いただきたいと思います。

みなかみ町では、少子高齢化が進んでおります。子育てしやすい町にするために、どのような子育て支援の充実が必要だとお考えでしょうか。お聞きいたします。

議長（石坂 武君） 町長。

町 長（阿部賢一君） 子育て支援、どんな、どういうことをやっていくか、まあ、いろいろ、昨日の鈴木美香議員の質問ともちょっと重なる部分があるかもしれませんが、その辺はちょっと承知しておいていただきたいと思いますし、昨日、美香議員とのやり取りを恐らく聞いていたので、その部分については割愛をさせていただきたいと思います。

子供を産み育てるならみなかみ町ということで、昨日もそういうお話をさせていただきました。

国においても、やはり子育て支援には、ここへ来て、出産一時金とか、50万円とか、金額はいろいろまだあれですけども、そういう話になって、国でも大変力を入れている。ですから、今の段階では、国のそういう動き、財政支援、子育て支援に対する国の支援策はやはり注視して、どういう事業になるのかというのが明確になった時点で、町としてそれにプラスアルファするのがいいのか、また、ゼロ歳、オギャーとこの世に生まれてから18歳まで、昨日もお話ししましたがけれどもその間、もちろんトータル的には支援はします。どういう方法がいいかということは、これから子育て健康課なり、いろいろ所管する部署と調整していきたいと思っています。

今も子育て支援については、みなかみ町は充実結構しているんだと思います。星野議員は、お子様小さい方がいらっしゃるので、どう思っているかは別としても、いずれにせよ、ゼロ歳から18歳まで、やっぱりトータル的な支援策というものをしっかり充実していきたいと思っています。

いろいろな反面、例えば子育て支援住宅なんかの支援も、やっぱり定住にはつながっている事業だと思っています。子育て世帯の進捗、恐らく相当な件数、私が今承知している限りでは、170件ぐらいの子育て世帯の方がこのみなかみ町に住居を構えて子育てをしてくれているという。ですから、それはそれとして、家に対する補助金ですから、その中でお子さんを育てている方にも、具体的にはというと、いろいろるる列挙すればあるんですけども、今まで国のその動きを注視しながら、町としてできる支援策ということ、もちろん財政がありますからね。財源をしっかりと吟味しながら、支援をしっかりとしていきたいというふうに思っています。

それがみなかみ町で子育てする環境の一つの、皆さんから産み育てるのにみなかみはいよねと思われるような、そんな政策を展開していければと思っていますので、議員のご協力もよろしく、まだ子育ての真っ最中の方の、一応、いろいろな貴重な意見をお聞きできればと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思います。

議 長（石坂 武君） 星野君。

（6番 星野宗央君登壇）

6 番（星野宗央君） 答弁いただきました。

トータル的に、子育て支援ということでやっていたということですけども、その子供の保育料についてなんですが、現在、3歳以上は保育料が無料になりました。うちの子も3歳になりましたので、ちょっと楽になったんですけども、ゼロ歳から2歳までが、いまだ有料となっています。

保育料の完全無料化、ゼロ歳から2歳までの無料化を含めて、学校給食の無料化をした

場合の町の負担はどのくらいになるのかということ、ちょっと、予算書、決算書だとちょっと分かりづらかったので、もし数字が分かりましたらお願いします。

議長（石坂 武君） 町長。

町長（阿部賢一君） 子育て、数字ということなので、ゼロ歳から2歳までで、取りあえずよろしいでしょうか。それでお答えしますと、保育料等については、給食費も含まれて約1,700万円です。

よろしいでしょうか。ゼロ歳から2歳まで。

それで、学校給食費もという問いでしたかね。学校給食費を完全に無料化した場合の負担については、令和4年の調定額、保護者が負担する額ですね。小中、児童生徒分で5,010万6,000円。約5,000万円。

ただこれ、物価が、昨日もお話ししましたけれども、物価が高騰して原材料費が上がっている分は、町で手当はしているということをご理解いただいていますよね。純粹にだから5,000万円、あらかた、恐らく流動しても5,000から5,100万円とか、そういう金額なんだと思いますけれども。

以上です。

議長（石坂 武君） 星野君。

（6番 星野宗央君登壇）

6番（星野宗央君） 保育料と学校給食の無料化をすると大体7,000万円近くかかるというお話でした。簡単にこれ実施するというのは、ちょっと大変だとは思いますが。

実際、みなかみ町の予算体制が160億円ぐらいありますよね。その中で考えると、7,000万円はちょっとね、ちょっとどのくらい大変なのかというのがちょっと想像できないんですけれども、保育料と学校給食の無料化についての町長の見解と、取組の予定などありましたらという質問なんですけれども、ちょっと昨日の質問とかぶってしまうんですけれども。

議長（石坂 武君） 町長。

町長（阿部賢一君） 給食費。私は給食費、無料化を目指すということで、昨日の鈴木議員とのやり取りの中で、それを目指している、まあ、スタートラインに立ったということです。

昨日も申し上げましたけれども、やっぱり聞いていて、私の思いというものは、星野議員には伝わったんだと思っています。

やっぱり何でも無料にするのが、果たしてそれがいいのかという思いはしています。昨日も申し上げましたけれども、給食には給食の良さがあり、給食の役割も教育の一環で、食育含めて大変大切な一つのことだと思って、毎日食べるものを栄養を管理していただいて。昨日答弁したとおりの思いなんですけれども、それ以上、今は答弁することはできませんし、また、これからまたこういう時代で、国際情勢の中でまた原材料が上がったりとかして、給食費が高くなったというときには、極力保護者の方に負担をかけないような形で、またいろいろ手当はしていきたいと思っています。

だから、今の現状の給食費は上げるつもりはないということをご理解いただければと思います。

星野議員はどういう思い、給食に対してどういう思いがあるかは承知はしていませんけれども、食べるものが全てただというのは、これは、私は教育の観点からもうかがなものとこの思いは持っております。やはり昔の食糧難のときのことを考えれば、今は本当に恵まれて、食品ロスが叫ばれる時代ですから、それでただというのは、逆にあまりいいことじゃないんじゃないかなと思っております。

ただし、ただしですよ、県全体とか地域で全体がこういうふうになったときには、それは公平性を考えますということで、ご理解をいただければと思います。

議長（石坂 武君） 星野君。

（6番 星野宗央君登壇）

6番（星野宗央君） 町長のお考え、昨日も聞いたので申し訳ない。重なっていてすみませんけれども、そういう考えを、確かに、うちに昨日帰ってから、町長の公約とかチラシを見たら、確かに目指すと書いてあったので、間違いはないなというふうに思いました。

そういうので、みなかみ町の今後の子育て支援の充実を願ひまして、次の質問に移りたいと思います。

次の質問なんですけれども、お年寄りの移動対策ということでお聞きしたいと思います。

みなかみ町も、うちの近所も、もう子供があんまりもういなくて、隣組が9軒あるんですけども、その中で3軒しか子供がもういません。3軒いる家は、結構、うちも2人生まれてくるんですけども、複数子供を育てていて、やっぱり大変なところもあるんですけども、高齢化が進んでいます。

乗合タクシーなどの公共交通の充実は、これからますます重要となっていくと思います。町としてはどのように取り組んでいらっしゃるのでしょうか。お聞きしたいと思います。

議長（石坂 武君） 町長。

町長（阿部賢一君） 現状がどういう取組しているかというご質問だと思います。

いろいろ、社会福祉協議会とも連携しながら、いろいろる対策は講じているのは、星野議員ご承知かと思ひますけれども、実証実験でおでかけタクシー券事業というものも開始をしております。これは、みなかみ町に住民登録のある65歳以上の方で、運転免許証を持っていない方を対象に、申請に基づき、タクシーだけが利用できる1万円分のMINAKAMI HEARTカードを1人1枚交付する事業です。

本年度は、新型コロナウイルス感染症対策地方創生臨時交付金を財源に、家に閉じ籠りがちになっている高齢者に対し取り組んでいる事業ですけれども、来年度も継続して実施したいというふうに考えております。

あと、路線バスは、いいですかね。また、そういう事業をしているということで。

やっぱり今おっしゃったとおり、これから足の確保というものは本当に大事になってくると思ひますので、社会福祉協議会とも連携する中で、どういう方法がより効果的で、お年寄りに遠慮なく、遠慮なく利用してもらえ、そういう交通弱者対策というものは必要だというふうに強く感じております。

議長（石坂 武君） 星野君。

（6番 星野宗央君登壇）

6 番（星野宗央君） ありがとうございます。

答弁いただきました。

沼田市とか昭和村でデマンドバスが今後運行されるということなんですけれども、みなかみ町でその考えはありますでしょうか。

議長（石坂 武君） 町長。

町長（阿部賢一君） 考えがあるかという、今まで、さっき前段申し上げました、どういう方法が利用しやすく、遠慮なく使ってもらえる対策はどういうものかというのをしっかり調査研究した上で、このデマンドバスも選択肢の一つとしてあってもいいのかなど。

今後、取り組むか取り組まないかというのは、現段階ではまだ検討には入っていないということでご理解いただきたいと思います。

議長（石坂 武君） 星野君。

（6番 星野宗央君登壇）

6 番（星野宗央君） 車の免許返納が大分うちの近所でも増えてきているようでして、シニアカーという、年配の人が乗っている車の、小さい車のことなんですけれども、その通行に関して、安全が保てるような方法が何か取り組まれているのでしょうか。

うちに踏切とか、後閑駅まで行くまでの道がちょっと狭いんですけれども、歩道は多分走ってはいけないと思うんですよね。恐らく車道を走るんだと思うんですけれども、それに関して、何か対策みたいなのがあれば、ぜひ聞かせていただきたいと思います。

議長（石坂 武君） 町長。

町長（阿部賢一君） 最近よく見かけるシニアカー、免許返納者の高齢者の方に限らず、足腰が弱いご婦人方なり、走っていますよね。安全対策ということなんですけれども、まあ、あれはどのようなんですかね。普通にうちのほうなんかは、道の端をこう行って、車のほうが気をつけるようにしていますけれども。

星野議員のご自宅、あの辺やっぱり道も狭いし踏切もありますから、ちょっとスピードなど出してきた車があると非常に危険だというふうには感じていますけれども、取締りは、あれは専門的にはどうなんですかね。ちょっとその辺は、ちょっと申し訳ないんですけれども、承知はしていないんですけれども、個人的には、もうそれが走っているのが分かれば、車が気をつける、私は個人的には気をつけるようにしています。

やっぱり薄暗くなったときなんかは余計危ないんですよね。ですから、あれは後ろも前もライトをつけるなり、反射光みたいなのを、それをやっぱり指導なりお願いするべきだと思います。

講習の制度があるのかどうか、ちょっと公安委員会に聞かないと分からないかなという気がしていますけれども、車のほうが気をつけるようにしているということです。今の言えることは。

何かほかに、もし、ありますか。

すみません、ちょっといいですか、付け加えて。

道路においては、歩道の有無に従った走行ルールを守り、また、段差のある道路や踏切を渡る場合は介助者に同行してもらい、信号に注意して運転することが事故防止。だから、

誰か1人ついていっていただけるのが一番だが、なかなかそうはいかないのが現実だと思いますけれども、そういうことでご理解いただきたいと思います。すみません。

議長（石坂 武君） 星野君。

（6番 星野宗央君登壇）

6番（星野宗央君） なかなか個人任せになっているのかなというふうに思います。

免許を持っている我々が気をつけて走るしかないのかなというのも思っているんですけども、何かそういうので取り組むことがあったら、ぜひともお話を聞かせていただきたいと思います。

これにて一般質問を終わりにしたいと思います。お世話になりました。

議長（石坂 武君） これにて6番星野宗央君の質問を終わります。

ここで暫時休憩いたします。再開を10時20分といたします。

（10時04分 休憩）

（10時20分 再開）

議長（石坂 武君） 休憩前に引き続き、会議を再開します。

通告順序6 5番 茂木法志 1. 公約に対する具体的施策は

議長（石坂 武君） 次に、5番茂木法志君の質問を許可いたします。

茂木君。

（5番 茂木法志君登壇）

5番（茂木法志君） 5番茂木法志。

議長の許可をいただきましたので、通告に従い一般質問をさせていただきます。

まず最初の質問ですが、先ほど小林議員からも同じ質問があったかと思います。ファンクラブ構想について、先ほど町長の答弁の中で、まだ構想、これから考えていくということの答弁がありましたけれども、そもそもこの公約に掲げるときに、ファンクラブ構想における成果目標、KPIですね、やっぱり構想として掲げるのであれば、そういう成果目標がなければ構想を掲げられないと思うんですけども、町長の考え、掲げたときのKPIというところを教えてくださいませんか。

議長（石坂 武君） 町長。

（町長 阿部賢一君登壇）

町長（阿部賢一君） 茂木法志議員の質問にお答えします。

構想、公約に掲げるときにどういう考えがあって、どういう、一応、使う媒体等はいろいろな媒体がありますので、何が一番有利か、またそういうことを考えて、規模的には1万人ぐらいの規模がいいのかなというふうな思いはしています。それで、会員になっていただいた方に、やはり広くみなかみ町のよさを発信していただいて、それぞれ会員になった方々に、それなりの特典をつけたりということも、ちょっとあってもいいのかなという、

そういう構想が当初あり、ファンクラブ構想ということで打ち立てたということでご理解いただければと思います。

詳細な、これからのまだ煮詰める部分がたくさんありますので、その点については、これからしっかりと練っていきたい。そういう精通した議員各位にも、ぜひご協力いただければというふうに考えております。よろしく申し上げます。

議長（石坂 武君） 茂木君。

（5番 茂木法志君登壇）

5番（茂木法志君） ありがとうございます。

先ほどの答弁の内容とすると、戦略、戦術の部分かなと思います、その手法の部分なので。その結果、どうなったら、このファンクラブ構想がというところが、やっぱり知りたい部分ではあったんですけども、そういったところの具体的なところを、イメージで構いませんので教えていただけますか。

議長（石坂 武君） 町長。

町長（阿部賢一君） 結果どうなったらという、もちろんいい結果を目指して取り組むんですけども、どういう方法が、よりいい結果に導く方法なのかということ、今いろいろな方面、いろいろなやり方で検討している段階です。いずれにせよファンクラブですから、どんどん訪れて、みなかみが好きですよ、関心がありますよ、宣伝しますよ、応援しますよという方をどんどん増やす。とにかく交流人口なり関係人口なり、観光客にどんどん来てもらう、それが大前提で考えています。

だから、ツイッターとか、町のホームページとか、先ほど申しましたけれども、媒体も何がより効果的なのかを含めて、現在検討中、来年度に向けて検討している段階でご理解いただければと思います。いろいろまだ皆さんの知恵が、いろいろな方法というものが、こういうのもいいよ、こっちのほうがいいよというご意見があると思うんですけども、ぜひ、そういう意見を寄せていただいて、よりよいファンクラブ構想になるように、ぜひ協力いただければというふうに思っていますので、よろしくお願い申し上げます。

議長（石坂 武君） 茂木君。

（5番 茂木法志君登壇）

5番（茂木法志君） 分かりました。

ただそのSNS、先ほどのホームページというところなんですけれども、例えば仮に、今現状、ホームページも新しくされましたね。そのホームページの閲覧数だとか、今、実際の観光体験とか、そういったところに精通しているSNS等のアクセス数とかということでは、今、町長、実際にどのくらいかということはお存じですか。

議長（石坂 武君） 町長。

町長（阿部賢一君） 手元の確認した数字だけちょっと述べさせてもらいますけれども、観光協会のインスタグラムやツイッター、フェイスブック、これは毎日更新しているんですね。現在のフォロー数は、インスタグラムが6,800人、ツイッターが4,000人、フェイスブックが1万7,200人ということで、それなりに効果は上がっているんだと思います。それなりにやっぱり情報発信の成果は上がっているんだなというふうに思います。

まだまだ、これからもっと強力に発信して、そういう方々を増やす努力はしていかなければならないと思っています。とにかく見てもらうこと、やって、見てもらって、みなかみっていいところあるよねとか温泉もあるよねということを見てもらって、関心を持ってもらうことが始まりだと思っていますので、これからもっとしっかり営業していきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

議長（石坂 武君） 茂木君。

（5番 茂木法志君登壇）

5番（茂木法志君） その発信する際に、やっぱり小林議員への答弁にあったかと思うんですけども、やっぱりターゲットを想定していくことが大事かと思いますが、町長がおっしゃる、このファンクラブ構想に向けてのターゲットというところかというと、みなかみ町を応援したいと思える人とか、まちづくりの力になってもらえる人、あと地域サポーターというところになり得る人というところを想定されて、関係人口を含めてですけれども想定されているかと思うんですけども、SNSの情報発信が、手段の目的化になってしまうケースというのは結構あることだと思います。なので、SNSを発信する際にも、バックキャストिंगの手法から要因を見つけてストーリー化していく。そのストーリーこそが戦略になるという、そういう発信の仕方も1つ提案させていただきます。

有名な例としては、よく空港で空港ガチャってあるんですけども、ガチャガチャを空港に置いて、これは外国人とか日本人もそうなんですけれども、小銭が手に余っている。それで買うとかという、こういったストーリー性を持たせて、小銭で買うお土産をという形でストーリー性を持たせてブームを起こしたというところもあるんですけども、そういったいろいろ発信、また仕掛けづくりというのは多種多様にできるかと思うので、そういったところをやっていただければなと思います。

情報発信は、SNSのみならず、もちろん今もやられているかと思うんですけども、QRコードから動画に飛ばしたりとか、広報紙等の入り口にしたりとかして、クロスメディア化することが重要かなと思っています。

そこで、これからということなんですけれども、例えばマルシェのほう、地元の食、食べる、持ち帰る流通販売というところですが、これは今のあるものを磨きをかけたりとか発掘していくということも含めてだと思うんですけど、自分も1期目のときに質問させてもらっている中で、加工場等、そういったところの考えというのは、このマルシェの中にもありますでしょうか。

議長（石坂 武君） 町長。

町長（阿部賢一君） 加工場、もちろん加工場も含めてという考えでいいんだと思います。ないんですよ、町。やっぱり特産品のいろいろなリンゴとか、いろいろなものを使って、やっぱり焼肉のたれとか、いろいろなそういうもので開発ができるんだと思います。もちろんそういうことも含めて、加工場も課題の1つだというふうに認識しています。いろいろどういう形がいいかというのは、これから検討していきたい。

また、先ほど前段、茂木議員が今、提案していただいたいろいろな情報発信の関係、そういう意見を、だから賜りたいんですよ、そういう意見を賜った上で、どういう形がい

いかということ、これから練っていくということをご理解いただきたいと思います。ファンクラブ構想のその情報発信のほうというのは。

ですから、いろいろとそういう皆さん、持っていると思うんで、そういうのを、だからぜひ意見として提案していただけて、議会議員の皆さんとも一緒に協力する中で、一つの大きなファンクラブ構想というものが初めて成り立つんだと思います。もちろん行政側も一生懸命取り組みますので、その辺はご理解いただいて、協力してやっていきたいと思えます。

加工場の件は、もちろん必要だという認識は十分持っています。ありがとうございます。

議長（石坂 武君） 茂木君。

（5番 茂木法志君登壇）

5番（茂木法志君） ありがとうございます。前向きにというか、これから絶対必要だと思うので、そのところは力強く提案していきたいと思えますし、要望していきたいと思えます。

それで、その加工場、今、ブドウも作っていたりだとか、そういったところもあると思うので、よろしく願いいたします。

あと、この体験のほうなんですけれども、現在、国自体も今、水際対策が緩和され、インバウンドもだんだん流れてきている状況ではあると思うんですけれども、国のほうでも、いまのインバウンド消費額、これを5兆円を目指し、速やかにその達成と、今後2030年に向けて、消費額15億円を国が目指すということが掲げられて、実際にそれに対しての施策等も出てきております。例えば特別な体験の提供、大自然の魅力を生かした新たな体験の提供、戦略的なプロモーションなどを想定していると。その想定している中の1つに、アドベンチャーツーリズムというのがあります。これはまさにアドベンチャーツーリズム、新コンテンツの提供の推進ということが想定されるかと思うんですけれども、この町長が今、ファンクラブ構想というところで、これは海外から来てくれる方に限らず、このアドベンチャーツーリズム、こういったのが体験観光といったところに当てはまってくるかと思うんですけれども、この実際、推進というところは、町長どうお考えでしょうか。

議長（石坂 武君） 町長。

町長（阿部賢一君） どうお考えでしょうかというご質問なんですけれども、まさしくみなかみにびったりな、みなかみ町は、アウトドア、大自然、まさにこのチャンスを逃さずに、積極的に町全体でそういう事業を、来ていただくためには、いまおっしゃったこと、アドベンチャーツーリズムとか、アウトドア、みなかみ町、大変盛んなのは、もちろん茂木議員も承知だと思うんですけれども、まさにチャンスだというふうに考えております。

具体的な国が示しているこの5兆円、消費が15億円程度、それで細かな政策はまだ承知はしていませんけれども、ぜひしっかりと取り組んで、こういう予算を目指す、国も恐らく一生懸命取り組むんだと思うんで、チャンスだというふうに認識して取り組んでいきたいと思っています。

議長（石坂 武君） 茂木君。

（5番 茂木法志君登壇）

5 番（茂木法志君） ぜひ、この様々な政策パッケージが出されておりますので、ちなみにその中の1つに、ガストロノミーという美食のツーリズムというのも入っているので、そういったところも参考にさせていただければと思います。

そうしましたら、次の質問に移りたいと思います。

次に、人口減少の対策についてです。

町長は公約、選挙中もですけども、主役は町民をスローガンに掲げていまして、一人一人に寄り添う町政にしていくと。特に問題は現場で起きているもの、解決できないは別として、一緒に考える姿勢が重要だと感じている。不安を抱えている町民に安心を与えるように取り組んでいくと、これはいろんな公約または群馬県建設新聞等にも記載されておりました。

その中で課題の1つとして人口減少を掲げ、自然減少もあるが、若者が大学や就職などで都市部に流出しているのが現状、流出を抑える対策とともに、若者が来る町を目指す。自然豊かで交通の便も恵まれているとともに、首都圏へ通勤も新幹線で可能な範囲にある。また、近年ではリモートによる業務も増えつつある。政策により環境を整えて、選択の1つとして選ばれる町にしていければと考えている。これは間違いないですかね。

議長（石坂 武君） 町長。

町長（阿部賢一君） 間違いないです。建設新聞ですよ、新聞に載っていたのは間違いなくて、多分、取材を受けたと思います。

議長（石坂 武君） 茂木君。

（5番 茂木法志君登壇）

5 番（茂木法志君） だとすれば、町長、中でもこの人口減少対策が一つの大きな課題であるという認識の中で、ちょっと話を進めさせていただきたいと思います。

人口減少をその対策として考える中で、様々な施策が考えられるかと思うんですけども、今回、時間等、またいろんな関係で、その中の1つとすると、移住定住を進める施策とかもあると思うんですが、この移住定住については、同僚議員の質問がこの後ありますので、そちらに任せるとして、自分のほうは、やはりこの出生数、これを基に子育て支援策というところも含めて、ちょっと質問させていただきたいと思います。

去年の出生数、日本全体で81万人、これは過去最少でしたよね。群馬県全体だと1万1,236人、みなかみ町は過去最少で58人でした。このように日本全体としても減少している。これはもう皆さんがご承知のことだと思います。

2016年、この母子保健法の改正により、2017年から包括支援センターが設置されまして、全国市町村努力義務となって、町長も答弁の中に何回も出てきておりますが、ワンストップで切れ目のないサポートを提供していくことが大切だと。これは実際、実施されているわけですけども、それにより育児の不安や虐待を予防することを目的にしているかと思います。これは町としても、今年、子ども家庭相談係、これを設置して、今後これが家庭センターとしての拠点づくりを目指すところにもなるかと思います。

また最近では、子ども・子育て支援法の改正や、2024年に向けて改正も行われた児童福祉法、これには児童育成支援拠点事業として、学校や家以外の子供の居場所支援が新

設として拡充されております。

町長、公約の中に、人口減少対策とされているんですけども、具体的にはどのような人口減少の対策を考えていらっしゃるのでしょうか。

議長（石坂 武君） 町長。

町長（阿部賢一君） 具体的にはというお話なんですけれども、とにかく現役世代に来ていただける、今までもそうですけれども、議員のときからもそういう取組はしてきたつもりで、茂木議員も恐らくそういうつもりで今、こういう質問をしてくれているんだと思います。

この関係については、本当にどこの自治体も、恐らく真正面から向き合っている課題なんだと思います。若い世代を呼ぶために何かというと、やはり住む場所とかも必要だと思います。定住促進住宅とか、そういう形のことも考えますし、あと、生まれてからのやっぱりサポート、子育て支援策というのは、今までもこれからも同じに充実させていきたいと思っていますし、前段、星野議員のときにも答弁させてもらったんですけども、子育て新築住宅補助事業とか、そういうのも一つの売りに、帰ってきて、じゃ、そういう事業があるならみなかみに建てよう、それも一つの、だから支援策、効果は上がっているんだと思いますね。だから、そういうことなんかも含めて、どういう方法がより効果的かということも、皆さん、子育て世代の皆さんですから、そういう議員各位からも、いろいろな提案をいただいた中で、何が一番効果があるかというものをしっかりと精査して、政策に反映できればというふうに考えています。

どこかの町や村や市で、必ず効果が上がっている事業というのがあるんだと思いますけれども、やはりそういう、まねするんじゃなくて、それをちょっとみなかみに合った形に変えた政策とか、そういうのもあってもいいのかなというふうに考えています。通勤圏内ですから、今この時期、先ほどお話がありましたように、勤務体系もいろいろリモートの方もいらっしゃるということを考えれば、逆に今がチャンスだというふうに捉える時期なのかなと思っていますので、その辺もやっぱり積極的にいろいろな意見を聞きながら、政策に反映できるように努めていきたいと思っていますので、よろしくまた、いろいろな提言をお願いしたいと思います。

議長（石坂 武君） 茂木君。

（5番 茂木法志君登壇）

5番（茂木法志君） 実際、コロナ禍において、移住が各市町村によってもかなり移住を推進されてきたと思うんですけども、今後、アフターコロナを含めてですけれども、今後のやっぱり移住支援とすると、潜在を掘り起こしていかなければ、今後は移住は伸びていかないかなというところであって、町長、若い世代を呼び込むというところなんですけれども、第2期のみなかみ町の子ども・子育て支援計画の中にも、少子化の対策として重点課題としてあります。子育て支援策の一層の充実と、若い年齢の結婚・出産の希望の実現、多子世帯への一層の配慮等々いろいろあるんですけども、例えば若い世代というのは、今、町長が想定するに、どういうところをターゲットに狙っていくことを想定していますか。

議長（石坂 武君） 町長。

町長（阿部賢一君） 若い世代というのは、どういう、若い方の層というところいろいろなんですけれ

ども、地域によって、うちなんかの地域はもう高齢化が進んでいるので、僕なんか若いほうなんですけれども、そういう地域もあれば、そういう幅広く多くの人に来てもらいたい。若い方というのは、できれば家族で来て住宅を構えてもらう、そんな思いがあって、若い方に限らず多くの方に、例えば定年退職した後、60で仮に退職して、まだまだ60は現役ですから、そういう方だって、うちのほうに来れば若者ですから、そういう形で、若者と表現させていただきませうけれども、広い範囲での若者というふうに理解してもらって、とにかく来ていただく人は拒まないという、そういう姿勢でいます。

議長（石坂 武君） 茂木君。

（5番 茂木法志君登壇）

- 5番（茂木法志君） 幅広いところ、もちろんそうですね。いろんな年代の方が町に興味を持ってくださったり、関係人口の方が来てくださることは、大いに歓迎すべきことだと思います。ただ、何を核として、この人口減少対策をしていくのかというところが知りたいところなんですけれども、例えば、よく、もう皆さんご存じかと思うんですけれども、明石市、これはもう非常に有名なところであると思うんですけれども、この明石市、令和3年の人口、社会動態の推移を見ると、やっぱりゼロ歳から4歳と、あと25歳から29歳、30歳から34歳というのが非常に大きく伸びている推移なんですけれども、現在、町の社会動態の推移というのは、どのようになっていますでしょうか。

議長（石坂 武君） 総合戦略課長。

（総合戦略課長 林 市治君登壇）

総合戦略課長（林 市治君） ただいまの質問にお答えします。

人口の増減の状況につきまして、統計指標を用いた数値を述べさせていただきます。

まず社会増減でございます。社会増減は転入転出でございますけれども、2011年、2016年、2021年の5か年を比較してみました。

まず、2011年の転入は、男女計で496人、転出が723人ということで、転出が227人超過してございます。2016年は同じく転入が588人、転出が700人でございまして、転出超過が112人でございます。2021年につきましては転入が530人、転出が555人ということで、転出超過が25人ということで、いわゆる転入転出の社会増減でいいますと、やや転出超過の傾向は少し緩くなってきているという状況であります。

一方で、出生と死亡についてですけれども、こちらにつきましても、やはり2021年、2016年、2011年で比較してみますと、2011年につきましては、男女合計の出生が104人、死亡につきましては332人でございまして、死亡のほうは228人超過しているということです。そして2016年につきましては、出生数が89人、死亡数が345人ということで、死亡の超過が256人、2021年につきましては、先ほど出生数、議員がおっしゃったとおり58人、死亡につきましては308人ということで、死亡のほうは250人超過しているという状況でございます。

以上が社会増減と、あと人口動態による出生、死亡の状況です。

以上です。よろしく申し上げます。

議長（石坂 武君） 茂木君。

（5番 茂木法志君登壇）

5番（茂木法志君） 説明ありがとうございます。

ちなみに、もう少し細かくお聞きしたいんですけども、その社会動態の中での一番伸びているところとか、転入が伸びているところというのは。一番増えている年代がどこが増えているか。

議長（石坂 武君） 総合戦略課長。

（総合戦略課長 林 市治君登壇）

総合戦略課長（林 市治君） お答えします。

年齢階層別社会増減数という統計資料がございます。こちらで2021年と2016年を比較してみますと、ある一定の年齢区分ですね、ゼロ歳から34歳を比較してみますと、2016年は全体的に転出が166人ということでございましたけれども、2021年は転出が74人というところです。2021年につきまして、転入が超過しているという年齢層で見ますと、ゼロ歳から14歳が13人超過しているというような傾向がございます。15歳から24歳については転出超過が76人という数値がございます。

以上です。

議長（石坂 武君） 茂木君。

（5番 茂木法志君登壇）

5番（茂木法志君） すみません、ちょっと町のホームページ等を調べてみたんですけども、明石市と対比できるような人口差、社会動態の推移がちょっと出てこなかったの、ちょっとお聞きしました。

その人口減少対策として、この人口ピラミッドを見ても、どうしても減る、人口が少なくなるということはもう明らかであって、その先10年、20年、30年先を見据えて、今、施策を打つべきだと思うんですけども、町長、就任されて、今後の人口減少対策として、子ども・子育てに対する予算割合、これを現状で適正なのかというところも踏まえてちょっとお聞きしたいんですけども、ヨーロッパ並み、ヨーロッパ等は諸外国、日本と比べても高い水準で子育てに力を入れている。これはご存じかと思いますが、日本としても、この町としても、これからの人口減少対策として、町長が考えるに、予算の割合というのは増額の考えはありますでしょうか。

議長（石坂 武君） 町長。

町長（阿部賢一君） 子育て支援、大切な人口減少対策に対する施策の1つだと、大きな柱だというふうに十分思っていますので、全体の予算の財源の中で、どういう、例えばふるさと納税を有効に使うとか、そういう形で手当てはしていきたいなというふうに考えています。

ただ、全体の中でのバランスというのがやっぱりあると思うんですけども、そういうものをしっかりと吟味して、皆さん方と議論する中で、よりよい方向性を見いだしていければというふうに考えております。今、現段階の答弁はそこまでにさせていただければと思います。

議長（石坂 武君） 茂木君。

(5番 茂木法志君登壇)

- 5 番(茂木法志君) その増額、それは検討していただくこととしましても、これは明石市での一つの施策をちょっと見て、これは取り組む必要性もあるかなと思ったので、ちょっとご紹介までなんですけれども、養育費の立替え制度の検討ですね。これはドイツ、フランスではもう法律化されているものにはなってくるんですけれども、明石市のところでも100万ぐらいの予算でやられているみたいなんです。実際に、その回収率は60%ほどで、40%は回収ができないけれども、ただ、その100万ぐらいの予算で、やはりシングルマザーの方でも子育てがしやすい環境をつくり、人口も増えているという一つの施策の中の結果の要因となっているのがこの施策です。そのあたり、町長のお考えはありますか。

議長(石坂 武君) 町長。

- 町長(阿部賢一君) 明石市、名物市長さんで、今後は立候補しないというようなですよね。子育て支援にしっかり力を入れていて、非常に成果も上がっているというように聞いております。養育費とか、あと何でしたっけ、ほかにも何か取り組んでいますよね、全国的にほとんど例がない何か、それは承知しているんですけれども、100万円という予算でという、それが高いか安いのか、どのくらい効果があるのか。どのくらいに利用者、それを申請する、そういうシングルマザーなりシングルファーザーのご家庭があるかというのを、ちょっと聞いてから、どうですかということ聞いて、やりました、申請者がいませんというのもあれなんで、その辺をよく調整してみる必要があるのかなと思います。ただ、予算規模的にはできない規模では、今、茂木議員がおっしゃった数字ならできない金額ではないなというふうに感じました。そういう意見も、ですから今度は担当課なりに、ぜひそういう提案というんですか、こういう事業があるのでどうですかというお話も、この機会に、ここで公になったわけですから、ぜひ情報提供をいただければと思っていますので、よろしくお願ひします。

議長(石坂 武君) 茂木君。

(5番 茂木法志君登壇)

- 5 番(茂木法志君) ありがとうございます。ぜひそういった形で意見交換させていただきながら、進めさせていただければと思います。

次に、福祉の拡充について、質問に入らせていただきたいと思います。

町長、公約として、先ほどもちょっと触れたんですけれども、建設新聞の中に、バリアフリー化が必要な箇所を中心に、施設が老朽化し狭くなってきているところをやっていく。また、福祉作業所のぴっころを新築したいというような内容がありまして、また、そのほかにも考えている福祉の拡充や施策等があればお聞きしたいんですが、よろしくお願ひします。

議長(石坂 武君) 町長。

- 町長(阿部賢一君) 健常者の人も、体に障害のある方でも、やはり普通に、どこにでも出かけられるようなバリアフリー化というのは、もう今、どこでもというわけじゃないんですけれども、それはもうやるべきことだというふうに認識しています。やはりそれが障害者の方にも寄り添う姿勢の一つの政策、方法なのかなという思いはしています。

もう一点、何でしたっけ、びっころの関係ですね。これは今、社会福祉協議会で進めている日本財団の補助率、100分の100の事業の採択が今月ですか、それがはっきりするのが、それがもし不採択になったとしても、びっころだけの施設、あのまま茂木議員も今の施設、承知しているかもしれませんが、ちょっと耐震とか、いろいろな問題があるのかなという気がしますので、場所の選定をして、そこに建て替えるとか、また、いろいろな候補地を、町有地を最優先に選んでいる、そういう状況かというふう把握しています。いつまでというのは分かりませんが、もう建て替えをせざるを得ない状況なので、それは来年度なり再来年になるか分かりませんが、しっかりと建て替える方向で進めていきたいと思っています。

もう一つ、茂木議員、福祉関係のお仕事をされて、私も直接ではないですけども、福祉関係のいろいろな情報なり現場の話も聞く機会が往々にしてあります。やっぱり人材確保、これは非常に課題なのかなというふうに思っておりますので、町でもその取組については、しっかりといろいろやっているのはご承知だと思います。共同で説明会をやったり、あと、たまたま人材確保の話が出たので、ちょっと1点だけ触れさせていただきます。

たまたま東京で福祉関係の仕事をしていた35歳ぐらいの方なんですけれども、たまたまお父様がお亡くなりになって、お母さんが1人だということで実家に帰って、それで福祉関係の仕事がしたいということでお話をいただいて、そういう感じで、私も個人的にもその方を施設に紹介して、もうずっとそこで今も勤めている。ですので、そういう例もあるので、それをいろいろな形で就職、企業説明会などを合同で開催したりして、多くの方に来ていただいておりますけれども、10月にやったときの参考までの数字をちょっとご紹介させていただきますと、9法人で参加者が17名、うち就職した方が1名、たとえ1名でもやったから、それがきっかけになってみなかみ町町内の施設に就職してくれたんですから、これが多い少ない、いろいろな見方があると思いますけれども、やったからこういう1人でも、そういうところに携わってくれたということで、それはそれで効果だと思っていますので、その辺は数字の多い少ないは別にしてご理解いただけたらと思いますし、やはりこれからも高齢化がどんどん進めば、そういう施設の需要というのはあるわけですから、あれも定員管理があるわけですね。何人に対して介護職員が何人というのがあるわけですから、施設を造って、職員がいないから受け入れられないなどということのないように、町もそういう福祉現場の現状をしっかりと把握した上で人材確保対策、これからも企業説明なりというものは、しっかりと福祉行政の中で取り組んでいきたいと考えています。

支援というと、現場での支援というのはなかなかできませんけれども、こういう形で支援することも一つの支援策として考えて捉えていただければと考えて思っていますので、よろしくをお願いします。

議長（石坂 武君） 茂木君。

（5番 茂木法志君登壇）

5番（茂木法志君） ありがとうございます。

町長おっしゃるとおり、やっぱりどうしてもいろんな職種がある中で、AI化できるものもあれば、やっぱりどうしても人が必ず携わらなければできない仕事等があるので、福祉

の部分は、そういったところが大きいにあると思っております。

合同説明会等、本当にたった1人というのは多い少ないということではなくて、本当にその1人の方が介護、医療等の現場に興味を持っていただいて就職していただけたということは、すごく介護業界にとっても医療業界にとっても大きなことであると自分も認識しております。

ちょっと話は戻りますけれども、バリアフリー化、今日、町長はバリアフリー化、これも当たり前にしていくべきだというご答弁をいただいたと思うんですけれども、一言にバリアフリー化といっても、やっぱり理念や包括的な支援が必要だと考えます。これを踏まえて、町がやっぱり今取り組んでいるところが重層的支援体制整備事業、このインクルーシブの社会の実現というところも踏まえて、こういった整備体制事業を進めていこうとしているところだと思います。現在の進捗、あとこれからの進め方について、ちょっとお聞きしたいと思います。

議長（石坂 武君） 町長。

町長（阿部賢一君） ユニバーサル化じゃないんだっけ、もう一度……

議長（石坂 武君） 茂木君。

（5番 茂木法志君登壇）

5番（茂木法志君） 重層的支援体制整備事業のほうです。誰一人取り残さない社会の実現ということで、包括的支援が必要となる中で、重層的支援体制整備事業を進めているかと思うんですけれども、こちらの進捗と状況ですね。

議長（石坂 武君） 町長。

町長（阿部賢一君） 重層的支援体制整備事業ということでいいんだと思いますけれども、この事業は福祉の相談機関として、まだ仮称なんですけれども、福祉まるごとサポートセンターを役場庁舎内に設置し、もちろん茂木議員はご承知だと思うんですけれども、高齢者、障害者、子供、生活困窮といった相談内容、種類にかかわらず包括的に相談を受け、複雑化・複合化した事例についてセンターが調整役となり、関係機関と連携して支援を行っていく。その進捗状況なんですけれども、令和3年度と4年度の2年間、移行準備を進め、令和5年度から本格的に事業を実施する予定となっております。

細かくあれですか、現在は月1回のワーキンググループを開催し、次年度以降の体制やケースについての検討や支援方法等、現在話し合っている状況だということです。よろしいですか、そういうことで取り組んでいるということです。

議長（石坂 武君） 茂木君。

（5番 茂木法志君登壇）

5番（茂木法志君） ちょっと答弁いただいた社会福祉の相談する場所というんですか、そういったところも拡充していただくということで、令和5年からの実施に向けて取り組んでいただいている状況を確認させていただきました。

その中で、コロナ禍で生活困窮者も増加していることはご承知されているかと思えます。生活困窮者の支援等は、様々に町でも国でも行ってきたかと思えます。12月6日、昨日ですね、社会保障審議会の生活困窮者自立支援及び生活保護部会の中間まとめがあるので

すけれども、その中にちょっと気になったので、子供の学習と生活支援事業ということで、コロナ禍の生活困窮者の中に、子供の貧困への対応というのも国のほうでは問題視、問題に今なっております、現状の町と照らし合わせて確認していきたいんですけども、この子どもの学習等生活支援事業ですが、生活困窮世帯の子供や生活保護受給者の子供に対して学習支援、生活習慣・育成環境の改善に関する助言等の支援であります。この本事業、その事業なんですけれども、令和3年度の実施率は約6割、人口10万人未満の自治体では実施率が低いことが分かっております。本事業を実施する自治体では、その学習支援は全ての自治体で行われている一方、生活支援のほうが約7割で、教育、就労に関わる支援は約5割ということなんですけれども、支援を受けている子供の年齢別でいうと、中学生が過半数を占めて、高校生以上は1割と。なので、本事業の支援効果としては、中学3年生の高校進学率や高校生の中退率が全世帯の平均値に近い実績になっていることが挙げられるということになっているんですけども、これは不登校やひきこもり、自分も質問させていただきましたけれども、ヤングケアラー等の個別の課題を抱えている子供たちへの個別だったり、長期的に支援が必要な部分だと思います。そのあたりについて、町の現状と町長のお考えをお聞きさせていただいてもよろしいでしょうか。

議長（石坂 武君） 町長。

町長（阿部賢一君） 生活困窮者世帯の子供さん、それぞれのご家庭の中のそういう経済状況で夢を諦めたり進路を諦めたり、やりたいことをやらないで我慢したりという、そういうことはあってはならない。やっぱり子供は子供さんなりに、それぞれ夢や希望を持って、本当に生活、それぞれのご家庭の経済状況によって、それが左右されない、そんなやっぱり社会が理想だと思います。それはやっぱり、どういう困窮者で、どういう方がいるかというのは、正直まだ自分は把握はしていませんけれども、あってはならないと思っていますので、やっぱり不登校につながる、なかなか例えばそういう子供さんに寄り添う姿勢として、子育て支援の一つの方法として、来年度、やはりカウンセラーなり何なりを、学校現場では解決できない部分もあります、増えてくれば。行政と家庭と学校と1つになって、やっぱりそういうお子様と各家庭に寄り添う姿勢というものは、制度というものは、この事業もしかりですけれども、しっかり確立していきたいと思っています。それが子育て支援の1つだというふうに認識していますのでよろしくお願いします。

議長（石坂 武君） 茂木君。

（5番 茂木法志君登壇）

5番（茂木法志君） 本当に福祉の拡充というのは、高齢者だけに限らずやっぱり全年齢、そういった福祉の対応、支援というのが必要になってくると思うので、ぜひそういったところも対応していただければと思います。

時間の関係で先へ進むんですが、ユニバーサルデザインというのが、この重層的整備体制事業、またはその誰一人取り残さない社会の実現に向けたというところで、ユニバーサルデザインの推奨、推進というところは、以前からも私のほうは訴えておまして、このユニバーサルデザイン、オストメイトトイレの対応等を質問させていただいた経緯があります。そのときに今後の施設等については、そういったところを視野に入れながら考えて

ていくという答弁をいただいたと記憶しておるんですが、現状そのような、これからかわまち、また高付加価値事業が進んでいく中で、そういった考えを用いて、今現在経過されているのか、またその考えがおありなのかというところをお聞きできますでしょうか。

議長（石坂 武君） 町長。

町長（阿部賢一君） 時間ですので簡潔に答弁させていただきますけれども、今後はいろいろな関係機関や施設側の意見も聞きながら、まずは情報交換、意見交換を行った上で、ユニバーサルツーリズムの受入れについて検討をしてみたいと考えています、検討ということで。

議長（石坂 武君） 茂木君。

（5番 茂木法志君登壇）

5番（茂木法志君） ぜひ、そのユニバーサルデザインを用いたまちづくり、これは明石市でもやっているんですけれども、いろんな施策があるので、色彩の調整をしたりとか、目のことだとか、いろいろな点字も含めてですけれども、いろいろなことがあるので、それをぜひしていただいて、様々なエリアによって、そういったところが必要な部分があるかと思うので、そこを進めていただければと思います。

観光面でいうと、やっぱりユニバーサルツーリズムの推進、そちらのほうも整えていていただきたいと思うんですけれども、ユニバーサルツーリズムの推進というのは、現状、今、町の中ではどのような状況になっているか、簡潔にいただいてもよろしいでしょうか。

議長（石坂 武君） 町長。

町長（阿部賢一君） ちょっと現状は承知していないので、観光商工課長に答弁させてもよろしいでしょうか。

議長（石坂 武君） 観光商工課長。

（観光商工課長 高野明夫君登壇）

観光商工課長（高野明夫君） お答えいたします。

ユニバーサルツーリズムの検討ということでございますが、今年もコロナ禍で宿泊施設などの人材不足ですとか、施設側の旅行支援事業の対応も多くありましたので、実際には観光関係者の受入れに関する意向確認もできていないというところが現状でございます。

今後は、まず観光協会にも協力をいただきながら、観光施設関係者などと意見交換を通じて、ユニバーサルツーリズムの受入れについて検討していきたいと思っています。

以前の質問のときに、オストメイトトイレ等をマップ上に落としてはというところがあったかと思うんですけれども、ここについては現在、町が作成した「みなかみさんぽ」という町内周遊のためのマップ付きの観光パンフレットがございます。この「みなかみさんぽ」を来年増刷をする予定でございますので、増刷の際に、新たに観光のトイレ、またオストメイトトイレの設置ヶ所を記載することも検討しております。そういったところから進めていきたいというふうに思っております。

議長（石坂 武君） 茂木君。

（5番 茂木法志君登壇）

5番（茂木法志君） 現状の確認をさせていただきました。マップに落とし込んだり、いろいろ発信していただけることが、先日、車椅子バスで牧田議員と一緒に、河合議員も一緒にい

らっしゃったんですけれども、車椅子バスケットの方々が来てくれたときにも、やっぱり、どこに車椅子の方が行けるのか、どこで食事ができるのか、そういったことも分からなかったということがあったので、やっぱりぜひそういったマップを資源化していくというのは必要なこと……

議長（石坂 武君） 茂木君、簡潔にまとめてください。

5 番（茂木法志君） ぜひ進めていただければと思います。

町のトップも代わり、社会情勢が変わり変化する中で、ワンストップだったりチームアプローチでアウトリーチを各分野の中で進めて、ぜひ町長の英断ある行政改革を期待して質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

議長（石坂 武君） これにて、5番茂木法志君の質問を終わります。

-
- 通告順序7 4 番 牧 田 直 己 1. 持続可能な行財政運営についての取組み
2. 町内居住希望者が暮らせる環境づくりへの取組み
3. 都市計画道路の完成に向けた取組み
4. 子どもの教育環境の充実への取組み

議長（石坂 武君） 次に、4番牧田直己君の質問を許可いたします。

牧田君。

（4 番 牧田直己君登壇）

4 番（牧田直己君） 4 番牧田直己。

議長の許可をいただきましたので、通告に従い一般質問を行わせていただきます。

まず初めに、持続可能な行財政運営について伺います。

さきの選挙にて阿部町長が新たにご就任されましたが、その選挙戦を通じて、町長が特に大切にされていたこととして、町民が主役の町、一人一人を大切にする町等々、優しいまちづくりを目指すというメッセージが非常に強かったように思います。

私自身も、やっぱり教育と福祉に時間と労力を惜しまず、心優しいまちをつくっていきたいと思っています。なので、重なる点は多々あるのかなというふうにも感じています。ただ、それらを実現していくために、お金は全てではないんですが、実際に必要な予算の執行というのをしていかなければいけません。

昨今のみなかみ町の財政状況を鑑みていくと、財政的にかなり厳しい状況にあるのかなというふうにも感じています。何が厳しいのかなというと、自分たちのお財布に入っているお金の範囲内でやりくりできればいいのですが、特に平成28年以降、財政調整基金からの予算計上額の上昇が著しく、平成28年に40億円を超えていた残高が、令和2年には27億円にまで落ち込んでいるという現状がございます。財政調整基金は、財政運営上の不均衡を調整するためのものであると認識をしているんですが、ここ数年は財源の不足を補うための基金になっているのかなというふうにも言えると思います。

ただ最近では、やっぱりコロナの影響だとか中学校統合等、使うべくして使われることに

関しては、不必要な財政出動とは思わないですし、使うときは使うべきだろうというふうにも感じております。

町長も、町議としてご経験も長く、私も含めて、こういった財政状況というのは把握されてきたと思いますが、ここまで常時財政調整基金に頼った予算編成等の財政状況について、町長のご意見、お聞かせください。

議長（石坂 武君） 町長。

（町長 阿部賢一君登壇）

町長（阿部賢一君） 牧田議員のご質問にお答えします。

財政の関係の質問だということで答弁をさせていただきます。

財政調整基金の残高は、やっぱりおっしゃったとおりピーク時の平成27年度には40億5,500万円と比較し、令和3年度で27億6,100万円となり12億9,400万円の減少となっています。また、減債基金やふるさと応援基金などの特定目的基金を合わせた積立基金の合計では、ピーク時の平成28年度79億4,700万円と比較し、令和3年度は78億7,800万円であり、この間の増減はありましたが、ほぼ水準で推移している状況です。

財政調整基金残高が減少した主な要因の1つとしては、平成28年度から普通交付税の合併算定替えの縮減が開始されたことが挙げられます。合併して10年はあめにむちの政策で、それから5年かけて段階的に算定替えて減少していくという現象が、まさにそのことだと思います。合併から10年が経過し、平成28年度から令和2年度までに段階的に合併算定替えによる増額分が縮減され、これにより普通交付税額が減少したため、財源不足を補う形で財政調整基金を取り崩しました。

また、その要因の2つ目としては、少子・高齢化の進行による社会保障関連経費の増加、GIGAスクールなどに代表されるデジタルトランスフォーメーションの推進及び運用、会計年度任用職員制度の導入、電子地域通貨の管理運用、ワーケーション、テレワークの推進など、行政活動の多様化に伴う財政出動が考えられます。また、この間、町内の義務教育学校の統合に備えるため、町立小中学校統合学校教育施設整備基金への積立てを行ったことや、将来へつなげる投資として都市計画道路の整備など、大規模事業を実施してきたことも少なからず影響していると考えています。

財政調整基金については、大規模災害の発生や予期しない歳入の減少などに備えるため、その維持が重要と捉えています。さきに申し上げましたが、財政調整基金が減少している一方で、ふるさと納税の増加等に伴い、ふるさと応援基金等の特定目的基金は増加していますので、これらを有効活用しながら、やはりこれからの時代、なお一層の行財政改革に取り組んでいかなければならないというふうに強く感じております。

以上です。

議長（石坂 武君） 牧田君。

（4番 牧田直己君登壇）

4番（牧田直己君） 行政活動の多様化等々、あらゆる要因がある中で、財政調整基金が使われてきたというふうに解釈をしております。

今度は経常収支比率を見てみたいんですけども、令和2年の数字を見ると、経常収支比率が95%を超えております。つまり毎年度経常的に収入される一般財源のうち、人件費、扶助費、公債費のように、毎年度経常的に支出される経費が95%ということであり、一般財源のほとんどが維持経費に使われているということになるんだろうと思います。

また、これからみなかみ町の人口構造を踏まえると、社会保障関連経費や公共施設等の維持経費等の増加が見込まれると考えられるんですが、これに対する対策、町長お聞かせください。

議長（石坂 武君） 町長。

町長（阿部賢一君） 先ほど牧田議員、ご紹介していただいた95%、令和元年度95%で、令和3年度が90.9%ということで、硬直化と言われる部分が、やや緩やかにはなってきているというふうに認識をしております。

経常経費の縮減を図るためには、やっぱり公債費については毎年度償還額以上に新たな起債をしないように、地方債の発行を抑えることを継続し、また事務事業の見直しなど、物件費や補助費等の削減や、これから取り組まなければならない一つの課題としてなんですけれども、公共施設等の統廃合による維持経費の削減、これはやっぱり課題になってくるんだと思います。そういうことを、これからいろいろとやりながら、やらなければやはり将来への責任として、誰かが誰かの、どこかの時期でやらなければならないことは、将来への責任としてやっていくということで、行財政改革を引き続き推進し、さらに自主財源の確保のために、町税の収納強化、税の公平性を保つためにも、その収納強化を緊張感を持って、これからも取り組んでいきたいというふうに考えております。

以上です。

議長（石坂 武君） 牧田君。

（4番 牧田直己君登壇）

4番（牧田直己君） 町長おっしゃるように、やっぱり公共施設等の維持経費等、そういった部分の統廃合を通して、スモールダウンということ、サイズダウン、これはしていかなくちゃいけないんだろうなと思います。

ただ、そういった施設が、やっぱり身近にずっと使われてきた町民の方々からすると、やっぱり心寂しかったり、時には批判の声もあったりするかと思いますが、やっぱりその先を超えて、将来にわたって持続可能な行財政運営ということを考えて上で、そこも1つ強く決断する必要も出てくるかと思いますが、そういったところも非常に期待をしていきたいなと思っているところでございます。

平成17年に合併して、当時は経常収支比率が102%という県内ワーストワンだったと。実質公債費比率が20%と、これもワーストツーという非常に厳しい財政の中、58歳退職推進等々、当時職員の方々の努力があって、何とか財政状況の立て直し、当時10億円ぐらいしかなかった財政調整基金を平成27年には40億円まで持っていき、改善の兆候が見られたという背景もございまして。

平成23年当初予算編成時には、財政調整基金の充当はなくて、大変な努力で財政再建

を図られてきたという経過があるんだなということは、いろいろと勉強させていただいて感じるところであります。

これから、より教育と福祉など、人に投資をしていきたいところだと思うんですが、一般財源のほとんどが維持経費に充てられている現状を踏まえると、対策を打たないといけないなと強く感じます。その1つに、先ほど町長がおっしゃっていた町税の収入を充てていくということにつながってくるんだらうというふうに思っております。

合併してすぐの平成19年、これは税金を見ると約40億円ありました。令和3年には28億円と約12億円が減少しております。それには町長も再三、先ほどから言っている人口減少、特に生産年齢人口の減少が大きく起因していることはよく分かりますが、収入を少しでも減らさない、むしろ高めていく、そのための対策等、(4)にて、税金を増加するための明るい方策ということも通告させていただいていると思いますが、これを併せて答弁いただければと思います。

議長（石坂 武君） 町長。

町長（阿部賢一君） 明るい方策、もちろんそれにしっかりと明るい方向を向いて、明るい方策を考えていきたいと思っています。

増加させるには、やはり基幹産業である農林業、観光の振興、またユネスコBRの価値を生かした取組などがすごく大事になってくるんだと思います。それはもう当然のことだと、牧田議員ももちろん認識はしていただいているんだと思います。

農業については、農地の集積や集約化について、地域の皆さんと一緒にあって取り組む必要があります。やっぱり集約していれば、大規模化の機械化もできるし、生産性もかなり上がるんだと思います。

町としては、町内12の地区で策定された人・農地プランにより明らかになった課題等、方向性に沿った取組を支援して農業振興に努めていきたい。また、認定農業者の支援や、地域外からの新規就農者の受入れ、また担い手の育成確保、担い手への農地の利用集積・集約化の促進、農業の省力化や観光負荷低減への転換を図るための施設整備等を支援し、効率かつ持続的な農業経営の確立をしていただきたいということです。

また、地産地消の推進や各種認証制度を活用した高付加価値化及び6次産業化、また海外輸出を含めた販路の拡大ということもしっかりと支援して、やはり税金につながればいいなと思います。

また、観光は町の強みとする東京圏からの交通の便がいいことで、1年中楽しめるアウトドアスポーツもありますし、また山岳景観や生物多様性豊かな森林を、趣が異なる多様な温泉群などを活かして、さらに磨きをかけていくことが大切なことだと思っています。

また、健康、アクティビティや飲食、宿泊などを組み込んだ健康のプログラムの開発とか、ヘルスツーリズムの推進も、その一つの方法だと思っています。

また、町内に点在する、先ほど申し上げました温泉18湯、これもしっかりと生かした中で、これからも温泉地の魅力づくり、そして基盤づくり、そしてもっともっとにぎわいが創出できるような対策、方法を皆さんと一緒に考えていきたいというふうに考えております。

農業や観光をはじめ、やっぱり町民生活そのものの価値をしっかりと磨きをもっともっと高めて、持続可能な社会の実現につなげていきたいという、そういう思いであります。それがいずれにせよ、そうやって経済が元気になることによって、間接的には税収も増える、増えていただきたい、そういうふうな思いでいます。いいですか。

議長（石坂 武君） 牧田君。

（4番 牧田直己君登壇）

4番（牧田直己君） 私も今、町長の答弁を聞いて、幾つかいろいろと産業について事細かに話そうかなと思った点はあったんですが、ただ、今、町長の言葉から出ただけでも、本当に多種多様なあらゆるジャンルの産業の入り口があるんだろうということだと思います。やっぱり産業の振興、これは絶対に必要なんだろうとっております。住んでよかった、住みたいと思えるまちにするために、現在の町税の収入、これは約30億円ですけれども、これを40、50としていくんだという気概が何よりも必要なんだろうとっております。教育や福祉、お金をかけるために産業の振興、官民連携事業の推進、ふるさと納税の振興、こういったことが必要なんだとっております。

町長はご自身、町議としての経験も踏まえて、よりよい行財政運営につながることを期待しまして、次の質問に移らせていただきます。

2番目なんですけれども、町内居住希望者が暮らせる環境づくりへの取組みについて質問をいたします。この質問については、1期目の頃からよくお話をさせていただいている質問でございます。

みなかみ町には、若者が住みたいと思える賃貸があまりにも少なく、町長もその点、本日もよくお話しされておりますけれども、供給がまだまだ行き届いていないのかなと、そんな感じを受けております。

私自身もSNSを通じてだったり、また知人を介してなど、みなかみに住みたいという移住希望者からの連絡をいただくことが、本当に多々多くあります。うまく希望者とマッチする物件があればいいんですけれども、ほとんどが、やっぱりそういった方々は、最初に関してはアパートを希望される方が非常に多くて、提供できる物件というのは非常に限られているのかなと感じるところです。そんな状況を肌で感じているわけなんですけれども、町長ご自身、住みたくする町、選ばれる町にしていくため、移住定住政策で実施する取組や大切にしていきたい心について、あればお聞かせください。

議長（石坂 武君） 町長。

町長（阿部賢一君） 移住定住、若者が出ていくから来る町に、まさにその方法の1つとして、今、牧田議員がおっしゃったような取組、とても大切だと思いますので、しっかりと進めていきたいというふうに思っております。

いろいろ方法はあるんだと思うんですけれども、みなかみ町定住促進住宅整備事業というものを、来年度から遊休町有地に官民連携で手をつけていきたいというふうに思っています。候補地についてはいろいろあるかと思うんですけれども、やはり行政だけではなくて、不動産会社、賃貸住宅会社ですか、そういう方々とも連携する中で、やはり住環境というのは本当に、牧田議員も同じ思いだと思うんですけれども、やっぱり、みなかみに

ないから、住もうと思ったけれども沼田に行っちゃったとかと、そういう例がやはりあるんだと思います。だから、やっぱりみなかみに住みたいと思う方の住環境の整備というものは喫緊の課題だと思っていますので、しっかりと進めていきたいと思っていますし、それが一つの移住定住策でもあるし、そういういい物件があれば、来なくなる若者もいて、来て、ここで仕事なり通勤なりでも結構ですけれども、現役世代がぜひ来ていただける町に、一つの方策として、そういうことを今考えていますので、いろいろなご意見がありましたら、ぜひ提言、提案、いろいろな意見を遠慮なく言ってもらえればと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

議 長（石坂 武君） 牧田君。

（4番 牧田直己君登壇）

4 番（牧田直己君） おっしゃるように、私もアパートを探し回ったところ、本当になくて、じゃ、やっぱり沼田へ行きますというケースは、本当にもう何度も何度も目の当たりにしてきたところでございます。

通告にあるように、以前、一般質問で、私、北海道の上士幌町の定住促進賃貸住宅建設助成事業の取組をご提案させていただきましたけれども、その進捗状況というのは、併せてお答えいただけますか。

議 長（石坂 武君） 町長。

町 長（阿部賢一君） 今、制度設計している状況です、検討中。やっぱり若者の世代のニーズに合った、やっぱり賃貸住宅というものを建設することが一番大切な早道かなと思っています。いろいろな牧田議員、そういう現場の、そういう北海道の何町でしたっけ、今そういう町、先進的な事例があるのを紹介していただきましたけれども、やはり住宅を建設するには、民間事業者に対し、先ほども申し上げました定住促進住宅事業というもので、建設費の一部を助成することで、それが建設の促進につながるんだと思います。行く行くは、それが牧田議員がよくおっしゃる地域の活性化にもつながることだと思っていますので、今言えることは、そういう詳細設計について検討中ということでご理解いただき、また町有地等の遊休町有地等も、どういう場所がいいかということも併せて検討中だというふうにご理解いただければと思います。

議 長（石坂 武君） 牧田君。

（4番 牧田直己君登壇）

4 番（牧田直己君） 行政の役割というか、行政が得意とすることは何だろうなというときに、やっぱり官と民が連携をして、やる気をサポートしていくということが、まず1つ行政のこれから重要になることだろうと思います。それを喚起するとか、それをどんどん進めていくための一つの補助事業が、今ご紹介した補助事業なんだろうと思っております。

町長、今おっしゃったように、町有地を使って、そういった官民連携の賃貸住宅というものを検討しているということですので、それがどんどん進んでいけば、みなかみに住みたくて来てくれている方々にとって、住める場所がどんどんできていくということであれば、少なからず、にぎわいも今よりも少しずつ増えていくんだろうということが考えられます。そういったことも期待して、若者が住める環境づくりの充実に期待して、

次の質問に移りたいと思います。

3つ目、都市計画道路の完成に向けた取組みについてです。

町長ご自身、選挙にて都市計画道路の完成をうたわれておりました。これについては何とか完成させたいという強い意志を感じるところでございますけれども、都市計画道路については長い年月をかけてここまで進めてきた事業だと認識しております。これまで大変なご苦勞があったと推測をしますが、残りの計画、悪戸矢瀬線ですね、17号につながる道までの開通に向けた今後の展開についてお聞かせください。

議長（石坂 武君） 町長。

町長（阿部賢一君） この事業は、もう完成したところは、もうそこまで完成しているということは、役場の上からも見て分かる。やはり17号につながって、利便性の向上なり、経済効果なりが生まれるんだと思うんで、早急にやっぱり完結、完成しなければならないと思っています。

旧後閑老人センター付近から17号トラックターミナル付近の1,145メートルにおいては、平成29年度に概略設計業務が完了しております。当路線については新規路線であるため、令和5年度から、来年度から動き出すということで、予備設計業務を行うとともに、地権者の方々と地元行政区への説明を令和5年度から行う方向でおります。

詳細設計業務を経て、土地所有者の方々のご協力を賜り、これがなければ進みませんので、必要な用地を確保した後、用地買収業務などの業務を進め、国の交付金事業を活用しながら工事をしっかりと推進していきたいと考えております。

ここであそこまで、17号バイパスまでこの道路がつながりますと、この都市計画道路の全てが完了するというご理解いただきたいと思います。やっぱりこういう用地買収とか、いろいろ用地の確保というのは、地元の皆さんの協力なくして仕事が進むことはないので、ぜひ、牧田議員も地元の議員としてご協力していただきたい。

またもう一つ付け加えるとすれば、先般、関係する行政区長、4区長からこの都市計画道路を早く完了してくださいという要望をいただいておりますので、そういう要望も踏まえた中でしっかりと推進していきたいと思っていますので、地元議員としてのご協力をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

議長（石坂 武君） 牧田君。

（4番 牧田直己君登壇）

4番（牧田直己君） 都市計画道路、これは本当に長らくずっと計画されてきて、まだ完成されていないところですけども、やっぱり、やる時はもう一気に、できるところをしっかりとやっていくということが必要になってくると思いますので、大変なこともあろうかと思いますが、阿部町長のリーダーシップに期待しております。

次に移ります。

4番、子どもの教育環境の充実への取組みについて伺います。

群馬県が出している令和3年度の児童・生徒問題行動、不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査をちょっと調べたんですけども、群馬県内の公立小・中学校で2001年度に不登校だった児童・生徒数は、その前の年に比べて31.4%増えています。令和2年

2,878人のところが3,781人まで上っているということで、これは驚異的な数字じゃないかなというふうに思っています。小学生が1,284人で、中学生が2,497人ということです。コロナウイルスへの不安から来る不登校者数については別枠で設けられているので、コロナに関わらず純粋に不登校者数が31.4%と、要因はあったんだろうと思うですけれども、それだけ増えているという数字です。

この数字を踏まえると、みなかみ町も心配なのは、県と同じように不登校の児童・生徒者数が増えているのか、その辺伺いたいなと思っているんですけれども、教育長、現状はいかがでしょうか。

議長（石坂 武君） 教育長。

（教育長 田村義和君登壇）

教育長（田村義和君） 牧田議員のご質問にお答えいたします。

不登校の増加の割合というようなことでございますけれども、現実のところ、先ほどご指摘がありました不登校につきましては、群馬県が2.6%と、出現率でいうと2.6%ということになります。ですから、1,000人に対して26人の不登校が群馬県、令和3年度について出ていたということでございます。

では、みなかみ町についてはどうかということで申し上げますと、全く同じパーセントで2.6%の出現でございます。ですので、小学生、中学生を合わせますと約1,000人ですけれども、およそ26人出ているというような状況です。

先ほど前年度に比べて30%アップということがございましたけれども、それもほぼ同じ割合で、本町におきましても増えているというような状況でございます。

議長（石坂 武君） 牧田君。

（4番 牧田直己君登壇）

4番（牧田直己君） 教育長からご答弁をいただきまして、みなかみ町も県と同様に2.6%くらいはあるんじゃないかというお話でありました。

教育長、肌感覚になってしまうかもしれないんですけれども、その要因というか、そうなっている要因について、もし話せる範囲内でいただければと思います。

議長（石坂 武君） 教育長。

（教育長 田村義和君登壇）

教育長（田村義和君） 増加した要因につきましては、よくコロナが原因で増えているんじゃないかというような話も出ますけれども、実際その因果関係はちょっと分からないところがございます。

ただ、令和3年度の状況を見ますと、中学校の場合には、コロナの関係で臨時休業になったと。4月末から5月にかけて臨時休業になったと。その後、やっぱり不登校の児童・生徒数、中学校の生徒は増えているというような状況がございましたので、何らかの関係は、やはり推察されるというふうに思います。

議長（石坂 武君） 牧田君。

（4番 牧田直己君登壇）

4番（牧田直己君） 群馬県も、どういった理由でそういった数字が上がっているのかと

いう考えについては、やっぱりコロナの影響によっての生活リズムの変化があるんじゃないかというふうな見解を示しておりますので、1つとして、それもあるんだろうというふうに感じております。

町長、こういった状況を踏まえて、臨時議会でも所信表明の際に、子供の不登校児童・生徒における支援の必要性について述べられておりましたけれども、今後の支援に対する町長のビジョンというか、どういったことが必要なんだろうという言葉をちょっといただければと。

議長（石坂 武君） 町長。

町長（阿部賢一君） 不登校児童・生徒さんが増加傾向にあるという共通の認識であります。やっぱり普通に楽しく明るく元気に毎日学校に行ってくれるのが、親としての一番の安心感だと思います。どういうことが原因かは別にしても、低年齢化で、例えば学校に行かなくなったという、これはちょっと私も調べさせてもらったんですね。そうすると、やっぱり家計の支出が増加すると。働き方を、小学校1年生が仮に学校へ行かなくて家にいた場合は、お母さんかお父さん、どっちか家族が留守にはできないわけですね。だから、働き方を変えざるを得ない。それで正社員を辞めた、それのおかげで、やっぱり経済的にも大変厳しくなってしまったと。それで、行かなかったことに対して、登校拒否になったことに対して妻が病気になり、だんなが早く会社から上がって家事をするようになったとか、自分を責めた、子育てに自信がなくなった、孤独感や孤立感、そして落ち込んでしまう。自分が消えてしまいたくなるといったような、いろいろなこういうデータがありました。

やっぱり学校現場だけでは、これだけ人数が増えてくると、先生はそうじゃなくても業務が多忙だというのが社会問題化になっているのは、牧田議員ももちろん承知しているんだと思いますけれども、やはり学校外での支援の充実が本当に大切だと思います。そういう家庭の親御さんになった身で、やはり親身になって相談する体制、またケアする体制というのは、しっかりと行政の役割としてやる必要があるんだと思っています。

その1つが、先ほど茂木議員の質問でも答弁させていただきましたけれども、町でカウンセラーなり、また、どこか空いているところで、学校へ行きたくないなら行かないで、どこかの教育委員会のどこかの部屋、今もやっているかもしれない、ああいうところで、いわゆる学校の代わりにそこに通学してもらったり、子供さんだけじゃなくて、ご家庭の親御さんにも寄り添う姿勢というの、うんと大切なんだと思います。

やはり、牧田議員もお父さんになってあれですけども、やっぱり自分の子供がそうなったら、どういう思いになるんだろうと思えば、すごくよくその人の気持ちが分かるし、寄り添えるんだと思います、そういう方々に。だから、そういう方向で来年度に向けては手当てといたしますか、寄り添う姿勢でそのことは進めていきたいと思っています。

本当に困っている方に寄り添う福祉行政といいますか、教育行政であるべきだと思っていますので、いろいろまたあるかと思っておりますけれども、ご理解いただければと思っています。来年度に向けては、そういう取組をさせていただきたいと思っています。

議長（石坂 武君） 牧田君。

（4番 牧田直己君登壇）

4 番（牧田直己君） 今お話があったのは、子供たちの居場所の選択肢というのを、学校の内はもちろんなんですけれども、学校の外でも選択肢の枠を広げてあげる必要があるのではないかなというふうに解釈をしております。

私もその必要性というのはすごく感じていて、田舎と都会で、ちょっと環境の差というのを見てみると、都会の子供たちというのは、田舎の子供たちとの環境の変化の大きな違いというのは、学校の外で子供たちの居場所の数にあるのかなというふうにも感じています。特に田舎の子というのは、学校と家の行き来で一日が終わってしまうときも、中にはそういう日もあったりもして、それがどんどん深くなっていってしまうと、人間関係の何というんですか、固定化というんですか、そういったことにもつながって行って、それが一つの、全部が全部ではないですけども、一要因のデメリットにもなり得るのかなというふうにも感じております。

こういったことを改善していくには、もちろん行政の努力というのも大変必要なんですけれども、例えばその子一人一人に合った居場所、これが何がヒットするか分からないと思うんですね。それがスポーツクラブなのか塾なのか、もしくは近所のおじさん、おばさんの家なのか、それはどこなのか、ちょっと分からないですけども、ただその教育、産業もしかり、スポーツクラブもしかり、地域の大人と子供が関わる機会の活性化というのが学校の外で必要になってくるんだろうというふうには常々感じているところです。それはボランティアでも産業でも、どちらでも必要だと感じております。

ここで最後の質問になるんですけども、教育版の地域おこし協力隊ということがございます。ほかの自治体では、学校現場に地域おこし協力隊が入って、教師や児童・生徒のICTの例えば教材の支援を行ったり、放課後の児童・生徒の見守りとかを行ったり、教育に特化した協力隊制度もあります。この制度のいい点というのは、順当に行けばなんですけれども、先ほど学校の外での選択肢の増加という点において、3年後、この地で起業されて、定住を目的としている制度ですので、つまり何かしら教育に携わる産業をなりわいにしていただける可能性があるということでもあります。現状、学童保育に地域おこし協力隊の方、来てくださっておりますけれども、より教育に特化した制度を積極的に利用させてもらって、現状の教育現場の困り事の緩和と、その後の教育事業に携わる起業を通じて、子供たちの学校内外の多様な居場所づくりに期待できる制度ではないかなと考えておりますが、この制度の積極的な活用について、教育長、ご答弁をいただければ、いかがでしょうか。

議長（石坂 武君） 教育長。

（教育長 田村義和君登壇）

教育長（田村義和君） その地域おこし協力隊の教育分野での活用ということで通告をいただきました。私のほうも改めて文科省のホームページを見たりとかして、そういう活用がされているんだなという、そこで認識したような状況でございまして、地域おこし協力隊は、やはりその地域に定住するのが目的ということがありましたので、ちょっと教育分野にはそぐわないかなと。例えば3年間、たまたま来ていただいても単発で帰ってしまうというのと、その教育効果、継続性とか考えると、うまくなじまないんじゃないかなというふうに考え

ておりました。

ただ、先ほどの牧田議員のご提案でいえば、その方がその居場所づくりの事業を自分で生計を立てるぐらいの収入を得ながら継続できる。しかも子供の新しい場所になるというようなことがあれば、それは子供にとって、より選択肢が増えるわけですので、よいことだなというふうに思いますが、まだ実現のイメージは持っていない状況でございます。

議長（石坂 武君） 牧田君。

（4番 牧田直己君登壇）

- 4番（牧田直己君） そうですね、3年間という時間もあって、結局やっぱり3年間この地において、需要と供給というところで考える時間と行動する時間があると。仮にそれでない場合もちろんありますので、その先どうなるかというのはもちろん分からないんですけども、ただ、やっぱり常々感じることは、先ほどから申し上げているとおり、学校外での子供たちの選択肢の広さ、これが田舎に行けばいくほど、やっぱり狭くなっているという現状はあると思うので、そこに対して、その行政が、じゃ、人とお金を投入することができるかもしれないんですけども、やっぱり先ほど財政の話もさせてもらいましたけれども、いろんな事業にどんどんお金というのは使わなければいけないという背景があると考えたら、やっぱり民間の方が産業ベースで介入していくというところの手助けというのをいかにできるかというのが、直接的ではないけれども、間接的に子供たちの居場所づくりにつながっていくということになり得るんだと思うんですね。

町長にもお聞きしたいんですけども、今、私が質問させてもらって、間接的な居場所の必要性というのを地域おこし協力隊と絡めて、その人のもちろんご都合もありますけれども、そういった考えというか意識というか、そういったことの点についてはいかがでしょうか。

議長（石坂 武君） 町長。

- 町長（阿部賢一君） 今やり取りを聞いていてあれなんですけれども、そういう教育分野でのというのを、ちょっとなかなか勉強不足で申し訳ないですけども、知らなかったというので、教育現場の責任者は、教育長が答弁したことが全てなのかなという思いがしています。

ただ、いろいろなやり方があると思いますので、検討する余地はあるのかなとは思っていますので、また、いろいろ情報収集、いろいろなデータを見た中で、教育行政、教育委員会と協議できればと思っています。今あまり詳しいことを承知していないので申し訳ないんですけども、今こういう答弁で、よろしくお願いします。

議長（石坂 武君） 牧田君。

（4番 牧田直己君登壇）

- 4番（牧田直己君） いろいろな角度から検討していただいて、町の力に検討すればするほどつながる可能性も上がりますので、私もしっかりと勉強しながら、いろいろな形でご提案させていただければと思っています。

世の中が便利になるにつれて、時代の変化の速度はとて早くなっていると思います。いつも社会のしわ寄せというのは、最終的に子供たちに行ってしまうような傾向にあるのかなというふうな気がします。この地域に住んでよかったと思えるまちの実現に向け

て、町長、町議、こういった立場を人のために最大限使いながら、いい地域をつくっていききたいと本当に思っております。町長のリーダーシップに、そして教育長のリーダーシップにも期待して、一般質問を終わりにさせていただきたいと思えます。

以上です。

議長（石坂 武君） これにて4番牧田直己君の質問を終わります。

以上をもちまして、一般質問を終わります。

休会の件

議長（石坂 武君） お諮りいたします。

明日12月8日から、12月13日までの6日間は議案調査のため休会したいと思いますのですが、これにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（石坂 武君） ご異議なしと認めます。

よって、明日12月8日から12月13日までの6日間は、休会することに決定いたしました。

散会

議長（石坂 武君） 以上で本日の議事日程第2号に付された案件は全て終了いたしました。

本日、本会議終了後、午後1時より議会全員協議会を開催いたしますので、出席をお願いいたします。

8日は、午前9時より総務文教厚生常任委員会を開催いたします。

9日は、午前9時より産業観光生活環境常任委員会を開催いたします。

12日は、午前9時より議会だより編集特別委員会を開催いたします。

最終日12月14日は、午前9時より本会議を開きます。

本日は、これにて散会いたします。大変ご苦勞さまでした。

（11時57分 散会）